

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-01

令和2年9月
原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-01

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年9月4日
至 令和2年9月29日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号 (平成28年10月7日) 関原発第434号 (平成30年3月20日) 関原発第46号 (平成30年4月20日) 関原発第202号 (平成30年7月4日) 関原発第259号 (平成30年8月20日) 関原発第415号 (平成30年12月5日) 関原発第504号 (平成31年2月1日) 関原発第512号 (平成31年2月6日) 関原発第582号 (平成31年3月18日) 関原発第3号 (平成31年4月4日) 関原発第68号 (2019年5月16日) 関原発第115号 (2019年6月24日) 関原発第204号 (2019年8月23日) 関原発第478号 (2020年1月23日) 関原発第510号 (2020年1月31日) 関原発第542号 (2020年2月26日) 関原発第609号 (2020年3月24日) 関原発第 20号 (2020年4月 7日) 関原発第236号 (2020年8月21日)
--------------------	---

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-01

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月4日	良	山形英男	ボイラー・タービン 主任技術者	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和 2 年 9 月 4 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良 ー	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良 ー	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良 ー	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録

(三号検査) 令和2年10月1日訂正: 山形

(一号検査)

成績書管理番号: 1-01

検査年月日: 令和2年 9月 4日

検査場所: 関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録

~~(三号検査)~~ 令和2年10月1日訂正: 山形

(一号検査)

成績書管理番号: 1-01

検査年月日: 令和2年 9月 4日

検査場所: 関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 主要弁 (別添1の太線枠内の範囲参照)			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号: T1-1-0210 ・目視で確認した範囲: 添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録

*~~(三号検査)~~(一号検査)
(立会検査)

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和2年9月4日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	検査結果	検査方法
原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 主要弁 (別添1の太線枠内の範囲参照)	外観検査 掘付検査	良	目視
備考			

*：令和2年10月1日訂正：山形

工事計画本文（原規規発第 1606104 号（平成 28 年 6 月 10 日認可））

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

6 余熱除去設備に係る次の事項

(6) 主要弁の名称、種類、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、駆動方法、個数及び取付箇所

・常設

名 称 ^(注1)			変 更 前		変 更 後
種 類	—		1MOV-8701A、B ^(注2)		変更なし
最 高 使 用 圧 力	MPa		止め弁 ^(注3)		
最 高 使 用 温 度	℃		17.16 ^(注4)		
主 要 寸 法	呼 び 径 ^(注4)	—	343 ^(注4)		
	弁 箱 厚 さ	mm	12B		
	弁 ふ た 厚 さ	mm			
材 料	弁 箱	—	SCS14A		
	弁 ふ た	—	SCS14A		
駆 動 方 法	—		電気作動		
個 数	—		2		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	1MOV-8701A A余熱除去ポンプ入口ライン ^(注9)	1MOV-8701B B余熱除去ポンプ入口ライン ^(注9)	
	設 置 床	—			
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁番号」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1-8701A、B」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切弁」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の主配管「弁 (1-8702A、B) ~ 弁 (1-8701A、B)」による。

(次ページに続く)

令和2年9月4日
別添-1 (1/3)

工事計画本文（原規規発第 1606104 号（平成 28 年 6 月 10 日認可））

(注5) SI単位に換算したものである。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「呼び径B」と記載

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) 公称値

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入ロライン」と記載

6

令和 2 年 9 月 4 日

別添-1 (2/3)

工事計画本文（関原発第 121 号（平成 30 年 5 月 24 日）にて軽微変更届出）

・常設

名 称		変 更 前	変 更 後	
		1MOV-8701A、B	1MOV-8701A、B (注1)	
種 類	—	止め弁	変更なし	
最 高 使 用 圧 力	MPa	17.16		
最 高 使 用 温 度	℃	343		
主 要 寸 法	呼 び 径	—		12B
	弁 箱 厚 さ	mm		
	弁 ふ た 厚 さ	mm		
材 料	弁 箱	—		SCS14A
	弁 ふ た	—		SCS14A
駆 動 方 法		—		電気作動
個 数		—		2
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	1MOV-8701A A余熱除去ポンプ入口ライン	
	設 置 床	—	1MOV-8701B B余熱除去ポンプ入口ライン	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

(注1) 新たに原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲となる。

(注2) 公称値

10

令和2年9月4日
別添-1 (3/3)

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-01

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月29日	良	渋谷 徹 	ボイラー・マネージャー 主任技術者 	なし

二

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和 2 年 9 月 29 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和2年 9月 29日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和2年 9月 29日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 <ul style="list-style-type: none"> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0212 ・<u>目視で確認した範囲</u> 			

設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606104号（平成28年6月10日認可））

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

6 余熱除去設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(次ページより記載)

15

16

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
(注24) 弁 (1MOV-8702A、B) ～ 弁 (1MOV-8701A、B)	(注2) 17.16	343	(注3) 323.9	(注3, 4) 33.3	SUS32TP	(注25) 弁 (1MOV-8702A、B) ～ 弁 (1MOV-8701A、B)	変更なし (注26) 18.5	変更なし (注26) 360			変更なし
(注27) 弁 (1MOV-8701A、B) ～ 格納容器貫通部 PEN#227、277	(注2) 4.1	200	(注3) 323.9	(注3, 4) 9.5	SUS32TP						変更なし

余熱除去設備

余熱除去設備

17

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
余熱除去設備 高温側注入配管 分岐点 ～ 弁 (1MOV-8818A、B)	4.1	200	(注3)	(注3, 11)	SUS32TP	余熱除去設備 高温側注入配管 分岐点 ～ 弁 (1MOV-8818A、B)	4.1	200	273.1	9.3	SUS32TP	変更なし
			(注3, 5)	(注3, 5)								
余熱除去設備 高温側注入配管 分岐点 ～ 弁 (1MOV-8817A、B)	4.1	200	(注3)	(注3, 11)	SUS32TP	余熱除去設備 高温側注入配管 分岐点 ～ 弁 (1MOV-8817A、B)	4.1	200	273.1	9.3	SUS32TP	変更なし

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器～レジャーサ (14×12)」及び「レジャーサ (14×12) ～余熱除去ポンプA、B」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

- (注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注6) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8809A、B) ～余熱除去ポンプ入口ラインとの合流点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8812A、B) ～燃料取換用水タンク出口ラインとの合流点」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラAバイパスライン」と記載
- (注11) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(8.2)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラBバイパスライン」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラA、B～弁 (1-HCV-603A、B)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「267.4/267.4/ー」と記載
- (注16) 重大事故等時に使用
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「9.3/9.3/ー」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-HCV-603A) ～余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(9.3)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-HCV-603B) ～余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ライン分岐点～弁 (1-8706A、B)」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「219.1」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「8.2」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8702A、B) ～弁 (1-8701A、B)」と記載
- (注25) 新たに原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲となる。

(注26) 重大事故等時における使用時の値

(注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁1-8701A、B～格納容器」と記載

(注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁 (1-8818A、B) 」と記載

(注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの注入母管分岐点～弁 (1-8819) 」と記載

19/E

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名 : 原子炉冷却系統施設
原子炉格納施設

系統名 : 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備)
ポンプ (常設)

要領書番号 : 原規規収第 1610071 号 1-02-1

令和 2 年 9 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第299号 (平成28年10月7日)
関原発第434号 (平成30年3月20日)
関原発第46号 (平成30年4月20日)
関原発第202号 (平成30年7月4日)
関原発第259号 (平成30年8月20日)

(以下、別紙1参照)
- 4 検査期日 自 平成30年11月26日
至 令和2年9月4日
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
三菱重工業株式会社 高砂製作所
兵庫県高砂市荒井町
- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設
原子炉格納施設
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備)
ポンプ (常設)
恒設代替低圧注水ポンプ 1個
原子炉下部キャビティ注水ポンプ 1個
- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり

3 検査申請

使用前検査申請番号

関原発第415号(平成30年12月5日)
関原発第504号(平成31年2月1日)
関原発第512号(平成31年2月6日)
関原発第582号(平成31年3月18日)
関原発第3号(平成31年4月4日)
関原発第68号(2019年5月16日)
関原発第115号(2019年6月24日)
関原発第204号(2019年8月23日)
関原発第478号(2020年1月23日)
関原発第510号(2020年1月31日)
関原発第542号(2020年2月26日)
関原発第609号(2020年3月24日)
関原発第20号(2020年4月7日)
関原発第236号(2020年8月21日)

8 検査結果 検査結果一覧表のとおり

9 添付資料 使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 材料検査記録
- 3 外観検査記録
- 4 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
- 5 耐圧検査、漏えい検査記録
- 6 検査用計器一覧表

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成30年 11月26日	中田 聡 田中 孝行	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし
令和2年 9月4日	原子力検査官 増本 豊	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし
年 月 日		主任技術者	

カ

検査結果一覧表

系統名：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）

ポンプ（常設）

検査項目	材料検査	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	耐圧検査、 漏えい検査	備 考
検査日	平成 30 年 11 月 26 日	年 月 日	年 月 日	平成 30 年 11 月 26 日	
結果	良	年 月 日	年 月 日	良	
検査日	年 月 日	令和 2 年 9 月 4 日	令和 2 年 9 月 4 日	年 月 日	
結果	年 月 日	良	良	年 月 日	
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

5

高浜発電所第1号機 使用前検査記録 検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成30年 11月26日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成30年 11月26日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録 検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和2年 9月4日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和2年 9月4日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和2年 9月4日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 11月26日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 11月26日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和2年 9月×日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和2年 9月×日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録 検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和2年 9月4日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和2年 9月4日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録 検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 11月26日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 11月26日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成30年 11月26日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	平成30年 11月26日	良	
	立会/ 記録確認	年 月 日		
	立会/ 記録確認	年 月 日		

検査対象		材料	検査年月日	検査結果	検査方法
高浜発電所第1号機					
材料検査記録					
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所 三菱重工業株式会社 高砂製作所					
検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個					
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。					
恒設代替低圧注水ポンプ		[REDACTED]	平成30年 11月26日	良	記録確認
	ケーシング カバー				
原子炉下部キャビティ 注水ポンプ		[REDACTED]	平成30年 11月26日	良	記録確認
	ケーシング カバー				
備考					
<ul style="list-style-type: none"> ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 ※：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0102 T1-1-0103 					

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

~~三菱重工業株式会社~~高砂製作所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）

ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個

原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	令和2年 9月4日	良	目視 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	令和2年 9月4日	良	目視 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0103

高浜発電所第1号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備
 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）
 ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個
 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	令和2年 9月4日	良	目視/ 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	令和2年 9月4日	良	目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0103

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

三菱重工業株式会社 高砂製作所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）

ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個

原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。

・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 MPa	耐圧検査 規定圧力 MPa	耐圧検査時 圧力 MPa	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MPa	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査 結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ						水圧	平成30年 11月26日	良	目視/ 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	2.7*1	2.7	2.77	11	2.77	水圧	平成30年 11月26日	良	目視/ 記録確認

備考：

※1：重大事故等時における使用時の値。

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0102

15

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日: 平成30年11月26日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2018年7月20日	
					2019年1月31日	
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2018年7月20日	
					2019年1月31日	

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610071号99

成績書管理番号 : 1-02-2

令和2年9月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-02-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年6月9日
至 令和2年9月25日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第 299号(平成28年10月 7日) 関原発第 434号(平成30年 3月20日) 関原発第 46号(平成30年 4月20日) 関原発第 202号(平成30年 7月 4日) 関原発第 259号(平成30年 8月20日) 関原発第 415号(平成30年12月 5日) 関原発第 504号(平成31年 2月 1日) 関原発第 512号(平成31年 2月 6日) 関原発第 582号(平成31年 3月18日) 関原発第 3号(平成31年 4月 4日) 関原発第 68号(2019年 5月16日) 関原発第 115号(2019年 6月24日) 関原発第 204号(2019年 8月23日) 関原発第 478号(2020年 1月23日) 関原発第 510号(2020年 1月31日) 関原発第 542号(2020年 2月26日) 関原発第 609号(2020年 3月24日) 関原発第 20号(2020年 4月 7日) 関原発第 236号(2020年 8月21日)
--------------------	---

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月9、10日	良	原子力検査官 河田 拓也 	ホワイ-7-セV主任技術者 	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 2 年 6 月 9、10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 6 月9.10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年6月9、10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 化学体積制御設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0201、T1-1-0205 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 可搬式代替低圧 江水ライン 接続口 ~ 恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管合流点			(注3) 165.2	(注3.37) 7.1	SUS304TP	
							(注3) 165.2	(注3) 7.1			SUS304TP	
							(注3) 114.3	(注3) 6.0				
							(注3) 165.2	(注3) 7.1				
					(注14) 2.7		(注14) 40	(注3) 165.2	(注3) 7.1			SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3) 7.1			
								(注3) 165.2	(注3) 7.1			SUS304TP

1

7

8

変更前					変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注14) 2.7	(注14) 40	(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP	
					可搬式代替低圧注水ライン接続口				／	／		
					～				／	／		
					恒設代替低圧注水ポンプ				165.2	7.1		
					出口配管合流点				(注3) 60.5	(注3, 37) 3.9		SUS304TP
									(注14) 95	(注3) 165.2		(注3, 37) 7.1

1

別添1-2

6

変更前					変更後									
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料			
	圧力	温度					圧力	温度						
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)				
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 充てん配管 分岐点 ~ 弁(1V-8579) ~ 充てん配管 合流点	(注11) 18.8	(注14) 150	(注3, 65)	(注3, 65)	(注65)	60.3	8.7	SUS27TP
					(注3)				(注3, 37)	60.5	8.7	SUS304TP		
					(注3)				(注3, 37)	89.1	11.1	SUS304TP		
					(注3, 65)				(注3, 37, 65)	(注65)	89.1	11.1	SUS304TP	

1

別添1-3

10

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注9)	(注9)		
									89.1	11.1		1
									/	/	SUS304TP	
									60.5	8.7		
									(注3,65)	(注3,65)		
									89.1	11.1	(注65)	1
							(注14)	/	/	SUS304TP		
							18.8	150	60.5	8.7		
								(注3)	(注3)			
								89.1	11.1		1	
								/	/	SUS304TP		
								89.1	11.1			
								/	/			
								-	-			

別添1-4

8 化学体積制御設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前						変更後							
名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
		圧 力	温 度						圧 力	温 度			
		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)				(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
化学体積制御設備	(注22) 充てん/高圧 注入ポンプ A、B、C ～	(注12) 18.8	150	(注2) 88.9	(注2、13) 11.1	SUS27TP	化学体積制御設備	(注16) 充てん/高圧 注入ポンプ A、B、C ～	変更なし				
	充てん/高圧 注入ポンプ 下流レギュレーサ (4×3)			(注2、13) 88.9	(注2、13) 11.1	(注13) SUS304TP			変更なし	(注2) 88.9	(注2) 11.1	SUS304TP	
				(注2、14) 114.3	(注2、14) 11.1	(注14) SUS32TP			変更なし	(注23) 60.5	(注23) 8.7		
				88.9	11.1				変更なし				

2

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月24日 25	良	増本豊 	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年6月24.25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年6月24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年6月24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0202、T1-1-0203、T1-1-0204、T1-1-1911(その1) ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3) 267.4	(注3, 37) 9.3	SUS304TP
							(注3) 355.6	(注3, 37) 11.1	SUS304TP		
							(注3) 267.4	(注3) 9.3	SUS304TP		
							(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP		
							(注14) 0	(注14) 40	(注3) 355.6	(注3) 11.1	SUS304TP
									(注3) 267.4	(注3) 9.3	SUS304TP
								(注3) 267.4	(注3) 9.3	SUS304TP	
								(注3) 267.4	(注3) 9.3	SUS304TP	

9/

17

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						<small>(注6)</small> 燃料取替用水 タンク 出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ~ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	0	95	<small>(注3)</small>	<small>(注3, 37)</small>	SUS304TP
					<small>(注3)</small>				<small>(注3, 37)</small>	SUS304TP	
					<small>(注3)</small>				<small>(注3, 37)</small>	SUS304TP	
					<small>(注3)</small>				<small>(注3, 37)</small>	SUS304TP	
					<small>(注3)</small>				<small>(注3)</small>	SUS304TP	

18

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
						(注5) 燃料取替用水 タンク 出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14) 0	(注14) 95	(注3) 355.6 / 216.3	(注3) 11.1 / 8.2	SUS304TP
									(注3) 355.6 / 355.6 / 267.4	(注3) 11.1 / 11.1 / 9.3	SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

19

変更前					変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						(注66)			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP	
									(注3)	(注3)	SUS304TP	
							原子炉下部			165.2	7.1	SUS304TP
							キャビティ	(注14)	95	/	/	
							注水ポンプ	(注14)	2.7	114.3	6.0	
							～			(注3)	(注3)	SUS304TP
							A内部スプレ			165.2	7.1	
						クーラ			/	/		
						出口配管合流点			165.2	7.1	SUS304TP	
									/	/		
									165.2	7.1		
							(注14)		(注3)	(注3, 37)	SUS304TP	
							150		165.2	7.1	SUS304TP	

20

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注5) 恒設代替低圧 注水ポンプ ~ B内部スプレ クーラ 出口配管合流点 (注14)	(注14) 2.7 95	(注14) 95	(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
					(注3)				(注3, 37)	SUS304TP	
					(注3)				(注3)	SUS304TP	
					(注3)				(注3)	SUS304TP	
					(注3)				(注3)	SUS304TP	
					(注3)				(注3)	SUS304TP	
					(注3)				(注3)	SUS304TP	
					(注3)				(注3, 37)	SUS304TP	

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管分岐点 ～ 弁(1V-6484) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管合流点	(注14) 2.7	(注14) 95	(注3) 60.5	(注3,37) 3.9	SUS304TP

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注6)			(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)
						内部スプレ クーラ			114.3	6.0	SUS27TP
						出口テスト ライン分岐点 ～			(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)
						弁 (1MOV-6496 A、B) ～	(注14)	(注14)	114.3	6.0	SUS304TP
						燃料取替用水 タンク	0	95	(注3)	(注3, 37)	
									(注3, 65)	(注3, 65)	
									114.3	6.0	(注65)
									114.3	6.0	SUS27TP
									—	—	

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

23

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注65)			(注3.65)	(注3.37.65)	(注65)
									114.3	6.0	SUS27TP
									(注3)	(注3.37)	
									114.3	6.0	SUS304TP
									(注3)	(注3)	
									114.3	6.0	
							(注14)	(注14)	114.3	6.0	SUS304TP
							2.1	95	114.3	6.0	
									114.3	6.0	
									(注3.65)	(注3.65)	
									114.3	6.0	
									114.3	6.0	(注65)
									114.3	6.0	SUS27TP
									—	—	

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

内部スプレ
クーラ
出口テスト
ライン分岐点
～
弁 (1MOV-6496
A、B)
～
燃料取替用水
タンク

24

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注5) 2.1	(注14) 95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	SUS304TP
						内部スプレ クーラ					
						出口テスト ライン分岐点			114.3	6.0	
						～			/	/	
						弁 (1MOV-6496 A、B)			-	-	
						～			/	/	
						燃料取替用水 タンク			114.3	6.0	

25

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注58)			(注3, 65)	(注3, 65)	(注65)
						内部スプレ クーラ			114.3	6.0	SUS27TP
						出口テスト ライン分岐点			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
						～	(注14)	(注14)			
						弁(1MOV-6496 A、B)	2.7	150	(注3)	(注3)	
						～			114.3	6.0	
						燃料取替用水 タンク			—	—	SUS304TP
									114.3	6.0	

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 7月16日	良	吾村直樹	ボラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし

26

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 7月 16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 7月16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 2 年 7 月 16 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 別添 1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0202、T1-1-0203、T1-1-0204、T1-1-1911(その 1) T1-1-1911(その 2)、T1-1-0603 ・目視で確認した範囲：添付資料 3-3 参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (一号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 7月 16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
＊ 恒設代替低圧注水ポンプ 出口配管分岐点 ～ 弁 (1V-6484) ～ 恒設代替低圧注水ポンプ 出口配管合流点	外観検査 組立て及び据付け 状態検査 耐圧検査 漏えい検査	別添2 参照 (耐圧検査 漏えい検査)	良	目視
以下余白				
備考	＊：弁(1V-6484)～恒設代替低圧注水ポンプ出口配管合流点 を除く。(7/16記録確認)			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 7月16日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏水検査	圧力計				2020年4月20日 2020年7月31日	
耐圧検査 漏水検査	圧力計				2020年4月20日 2020年7月31日	
以下空白						

2020. 7. 16 検査範囲

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注66)			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
						燃料取替用水 タンク			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
						出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ			(注3)	(注3)	SUS304TP
						入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14) 0	(注14) 40	(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP

耐圧・漏えい
(記録確認)

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

0202

2020. 7. 16
R1 添付(1)

32

33

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注66)			(注3)	(注3, 37)	
						燃料取替用水 タンク			165.2	7.1	SUS304TP
						出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ			(注3)	(注3, 37)	
						入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14)	(注14)	216.3	8.2	SUS304TP
							0	95	(注3)	(注3, 37)	
									267.4	9.3	SUS304TP
									165.2	7.1	SUS304TP

耐圧・漏えい
(記録確認)

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

0203
0204

0202

0203
0204

0202

0203
0204

別添1(2)
2020.7.16

34

変更前					変更後									
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料			
<p style="color: red; text-align: center;">耐圧・漏えい (記録確認)</p>					<p style="text-align: center;">(注66)</p>							<p style="text-align: center;">(注3) (注3)</p>		<p style="text-align: center;">(注3) (注3)</p>
<p>出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ</p>					216.3	8.2								
					<p style="text-align: center;">(注14) (注14)</p>							<p style="text-align: center;">(注3) (注3)</p>		<p style="text-align: center;">(注3) (注3)</p>
<p>入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ</p>					355.6	11.1								
							267.4	9.3						

0202

2020.7.16
R1131137

35

変更前					変更後											
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料					
					耐圧・漏えい (記録確認)	(注66)			(注3)	(注3, 37)	114.3	6.0	SUS304TP			
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ ～ A内部スプレ クーラ 出口配管合流点	(注14)	95	(注3)	(注3, 37)	165.2	7.1	SUS304TP			
									(注14)	(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／	SUS304TP
									(注3)	(注3)	114.3	6.0				
									(注3)	(注3)	165.2	7.1				
									(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／	SUS304TP	
									(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／		
						(注14)		(注14)	(注3)	(注3, 37)	150	165.2	7.1	SUS304TP		

0204

別添(4)
2020.7.16

36

変更前					変更後								
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
						(注66)			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP		
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	恒設代替低圧 注水ポンプ ~ B内部スプレ クーラ 出口配管合流点	(注14) 2.7 (注14)	95	114.3	6.0	SUS304TP	
											(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
											(注3)	(注3)	SUS304TP
											(注3)	(注3)	SUS304TP
											(注3)	(注3)	SUS304TP
											(注14)	(注3)	(注3, 37)

耐圧・漏えい
(記録確認)

0203

別添1(5)
2020.7.16

37

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備					
						恒設代替低圧注水ポンプ					
						出口配管分岐点					
						～					
						弁(1V-6484)	(注14) 2.7	(注14) 95	(注3) 60.5	(注3,37) 3.9	SUS304TP
						～					
						恒設代替低圧注水ポンプ					
						出口配管合流点					

外観・据付・耐圧・漏えい
(記録確認・立会)

0203

外観・据付・耐圧・漏えい検査 立会範囲

「弁(1V-6484)～恒設代替低圧注水ポンプ出口配管合流点」を除く

別添1(6)
2020.7.16

38

変更前					変更後									
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料			
	圧力	温度					圧力	温度						
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)				
外観・据付・耐圧・漏えい (記録確認)					(注66) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備							(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)
										114.3		6.0	SUS27TP	
										114.3		6.0	SUS304TP	
										114.3		6.0	SUS304TP	
										114.3		6.0	SUS27TP	
						(注1-1)	(注14)							
						0	95							

1911
その1
その2

別添1(7)
2020.7.16

39

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注66) 内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(1MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替用水 タンク	(注14) 0	(注14) 95	(注3,65) 114.3 /	(注3,65) 6.0 /	(注65) SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

別添1(8)
2020.7.16

07

変更前					変更後															
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料									
	圧力	温度					圧力	温度												
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)										
<p style="color: red; text-align: center;">外観・据付・耐圧・漏えい (記録確認)</p>					<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備</p>					(注66)										
															(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)	114.3	6.0	SUS27TP
															(注3)	(注3, 37)		114.3	6.0	SUS304TP
															(注3)	(注3)		114.3	6.0	
															(注14)	(注14)	/	/		
															2.1	95	114.3	6.0	SUS304TP	
															/	/	114.3	6.0		
										(注3, 65)	(注3, 65)									
										114.3	6.0	(注65)								
										/	/	SUS27TP								
										/	/									
										-	-									

0203
0204

0204

別添1(C9)
2020.7.16

41

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
外観・据付・耐圧・漏えい (記録確認)					非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注66) 内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ~ 弁(1MOV-6496 A、B) ~ 燃料取替用水 タンク	(注14) 2.1	(注14) 95	(注3) 114.3 / - / 114.3	(注3) 6.0 / - / 6.0	SUS304TP

0203

別添1(10)
2020.7.16

42

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
<p style="color: red; text-align: center;">外観・据付・耐圧・漏えい (記録確認)</p>					<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備</p>		(注66)			(注3, 65)	(注3, 65)	(注65)
							内部スプレー クーラ			114.3	6.0	SUS27TP
							出口テスト ライン分岐点 ～	(注14)	(注14)	114.3	6.0	SUS304TP
							弁(1MOV-6496 A、B) ～	2.7	150	114.3	6.0	SUS304TP
燃料取替用水 タンク			114.3	6.0								

0203
0204

別添1(11)
2020.17.16

43

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
材料・寸法・外観・据付・耐圧・漏えい (記録確認)					非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注68) 復水タンク ブロー配管 接続口 ~ 弁(ICW-301) ~ 復水タンク	(注14)	(注14)	(注3)	(注3)	SUS304TP
							0	40	165.2	7.1	
									(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3.37)	SUS304TP
							(注14)	(注14)	(注3)	(注3)	SUS304TP
	1.3	40	165.2	7.1							
			/	/	SUS304TP						
			/	/							
			89.1	5.5							

0603

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク~弁 (1-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

別添1(42)
 2020.7.16

- (注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注6) 重大事故等時に使用
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8926）」と記載
- (注9) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8926）～弁（1-LCV-115D、E）」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁（1-8811A、B）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8811A、B）～弁（1-8812A、B）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8958）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8958）～弁（1-8809A、B）」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁（1-5400）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジャーサ（4×3）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ（4×3）～レジャーサ（4×3）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ（4×3）～弁（1-8803A、B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8803A、B）～ほう酸注入タンク入口レジャーサ（6×3）」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジャーサ（6×3）～弁（1-8801A、B）」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8801A、B）～格納容器」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジャーサ（4×3）」と記載

カチ

別添1(13)
2020.7.16

- 45
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ～レジャーサ (4×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ～弁 (1-8815)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8815) ～格納容器」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク入口ラインレジャーサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8816)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8816) ～格納容器」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの高圧ラインのレジャーサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8814)」と記載
- 載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8814) ～格納容器」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8818A、B) ～格納容器」と記載
- (注35) 余熱除去設備と兼用
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの注入母管分岐点～弁 (1-8819)」と記載
- (注37) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8819) ～格納容器」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #229～分岐点」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8944A、B、C)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8944A、B、C) ～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注43) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / (最小) 9.5 / -」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #262～分岐点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8942A、B、C)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点」と記載
- (注48) エルボを示す。

別添(14)
2020.7.16

- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#261～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8939A、B、C)」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#276～分岐点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8937A、B、C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点およびレジャーサ(6×2)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8937C)及び弁(1-8939C)～弁(1-8940C)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小)9.5/(最小)9.5/(最小)9.5」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#263、224～分岐点」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8973A、C)および弁(1-8972A、B)を経て弁(1-8973B)」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8973A、B、C)～弁(1-8945A、B、C)」と記載
- (注59) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#258～分岐点」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8935A、B)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8935A、B)～弁(1-8940A、B)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁(1-8808A、B、C)」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8808A、B、C)～弁(1-8948A、B、C)」と記載
- (注65) 本設備は既存の設備である。
- (注66) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注67) SUS32TP同等材(SUS316TP)への取替えを行う。
- (注68) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注69) SUS27TP同等材(SUS304TP)への取替えを行う。

検査項目表
(2020/7/16受検予定範囲のみ抜粋)

要領書番号:1-02-2

施設区分	設備区分	機器区分	No.	機器名	1号検査						適合性確認検査 要領書番号	備考
					材質	寸法	外觀	塗付	耐圧	漏えい		
3原子炉冷却 系統配管	7 非常用炉心冷却設 備その他原子炉注 水設備	(7)主配管	112	燃料取替用水タンク出口配管分岐点及びB電動補助給水ポンプ入口配管分岐点～原 子炉下部キャビティ注水ポンプ及び循環代替低圧注水ポンプ	●	●	○	○	○	○	T1-1-0202	2
											T1-1-0203	1
											T1-1-0204	1
			116	原子炉下部キャビティ注水ポンプ～A内部スプレクーラ出口配管合流点	●	●	○	○	○	○	T1-1-0204	2
			119	循環代替低圧注水ポンプ～B内部スプレクーラ出口配管合流点	●	●	○	○	○	○	T1-1-0203	2
			181	循環代替低圧注水ポンプ出口配管分岐点～弁(1V-6484)～循環代替低圧注水ポンプ 出口配管合流点	●	●	○ (一部立金)	○ (一部立金)	○ (一部立金)	○ (一部立金)	T1-1-0203	3
			190	内部スプレクーラ出口ホストライン分岐点～弁(1MOV-6498A, B)～燃料取替用水タンク	●	●	○	○	○	○	T1-1-0203	4
								T1-1-0204	3			
								T1-1-1911(その1) T1-1-1911(その2)	1			
			188	凝水タンクブロー配管接続口～弁(1CW-301)～凝水タンク	○	○	○	○	○	○	T1-1-0603	1 2 3 4

 : 対象範囲

67

別添1 (16)
2020.7.16

48

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(24/42)

別添(17)

47

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (26/42)

別添1 (8)

原子炉炉心冷却系統運転に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (25/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (37/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (24/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (36/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (27/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(28/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(29/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
・ (非常用炉心冷却設備)
その他原子炉注水設備 (31/42)

別添(127)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(30/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (38/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備) (40/42)



原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(38/42)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(39/42)

別添1(32)

検査範囲図(2/2)

原子炉冷却系統施設に係る機器の
配置を明示した図面
(非常用炉心冷却設備
その他原子炉注水設備)(42/42)

耐圧検査、漏えい検査記録

検査年月日: 令和2年 7月16日						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査 圧力 (MPa) ^{*2}	保持 時間 (分)	漏えい検査 圧力 (MPa) ^{*2}	確認 方法	結果
*3 恒設代替低圧注水ポンプ 出口配管分岐点 ~ 弁(1V-6484) ~ 恒設代替低圧注水ポンプ 出口配管合流点	2.7 ^{*1}	2.8	11	2.8	目視	良
備考 ※1: 重大事故等時における使用時の値。 ※2: 使用圧力 ^{*1} ×1.0 (2.7MPa×1.0=2.7MPa) 以上 ※3: 弁(1V-6484)~恒設代替低圧注水ポンプの出口配管合流点、 を除く。(7/16 記録確認)						

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月18日	良	増本豊 	ボイラー-7-77 主任技術者 	なし

99

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 8 月 18 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 8月 18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・⊖	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 8月 18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0202、T1-1-0203、T1-1-0204、 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					(注5) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
								(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
								(注3)	(注3)	SUS304TP
								(注3)	(注3)	SUS304TP
						(注14)	(注14)	(注3)	(注3)	SUS304TP
								(注3)	(注3)	SUS304TP
								(注3)	(注3)	SUS304TP

70

71

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注56) 燃料取替用水 タンク			(注3) 165.2	(注3.37) 7.1	SUS304TP
						出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ			(注3) 216.3	(注3.37) 8.2	SUS304TP
						入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14) 0	(注14) 95	(注3) 355.6	(注3.37) 11.1	SUS304TP
									(注3) 267.4	(注3) 9.3	SUS304TP
									(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

72

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注56) 燃料取替用水 タンク 出口配管分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注14) 0	(注14) 95	(注3) 355.6 /	(注3) 11.1 /	(注3) SUS304TP
									(注3) 216.3 /	(注3) 8.2 /	(注3) SUS304TP
									(注3) 355.6 /	(注3) 11.1 /	(注3) SUS304TP
									(注3) 267.4 /	(注3) 9.3 /	(注3) SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注6)			(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
									(注3)	(注3, 37)	SUS304TP
						原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ ～ A内部スプレ クーラ 出口配管合流点	(注14) 95	(注14) 95	(注3)	(注3)	SUS304TP
							2.7		(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP
								(注14) 150	(注3)	(注3, 37)	SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

74

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						<small>(注6)</small> 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 恒設代替低圧注水ポンプ ~ B内部スプレクーラ 出口配管合流点	<small>(注14)</small> 2.7	<small>(注14)</small> 95	<small>(注3)</small> 114.3	<small>(注3.37)</small> 6.0	SUS304TP
					<small>(注3)</small> 165.2				<small>(注3.37)</small> 7.1	SUS304TP	
					<small>(注3)</small> 165.2				<small>(注3)</small> 7.1	SUS304TP	
					<small>(注14)</small> /				<small>(注14)</small> /		
					<small>(注3)</small> 114.3				<small>(注3)</small> 6.0	SUS304TP	
					<small>(注3)</small> 165.2				<small>(注3)</small> 7.1		
					<small>(注3)</small> 165.2				<small>(注3)</small> 7.1		
					<small>(注14)</small> 150	<small>(注3)</small> 165.2	<small>(注3.37)</small> 7.1	SUS304TP			

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月25日	良	荒谷 徹 	ボラー・マゼン 主任技術者 	なし

75

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 2 年 9 月 25 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 9月 25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年9月25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0218 ←目視で確認した範囲→			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変 更 前					変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
						(注65) B内部スプレ クーラ			(注3) 165.2	(注3, 37) 7.1	SUS304TP
						出口配管分岐点 弁(1MOV-8746)	(注14) 2.7	(注14) 150	(注3) 165.2	(注3) 7.1	
						行き ～ 弁(1MOV-8746)			／ ／ ／	／ ／ ／	SUS304TP
						B余熱除去クーラ 出口配管合流点	(注14) 4.1	(注14) 200	(注3) 165.2	(注3, 37) 7.1	SUS304TP

66
79

(令和2年9月25日)
別添1(1/12)

80

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
						(注66)			(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)
						内部スプレ ー クーラ			114.3	6.0	SUS27TP
						出口テスト ライン分岐点 ～	(注14)	(注14)	(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)
						弁(1MOV-6496 A、B) ～	0	95	114.3	6.0	SUS304TP
						燃料取替用水 タンク			(注3, 65)	(注3, 65)	(注65)
									114.3	6.0	SUS27TP
									—	—	

(次ページに続く)

別添1(2/12)
(令和2年9月25日)

81

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注66)		(注3, 65)	(注3, 65)	
						内部スプレ					
						クーラ					
						出口テスト			114.3	6.0	
						ライン分岐点			/	/	(注66)
						～	(注14)	(注14)	/	/	
						弁(1MOV-6496	0	95	114.3	6.0	SUS304TP
						A、B)			/	/	
						～			-	-	
						燃料取替用水					
						タンク					

(次ページに続く)

別添1 (3/12)
 (令和2年9月25日)

82

変更前					変更後							
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						(注66)			(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			114.3	6.0	SUS27TP	
									(注3)	(注3, 37)		
							内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(1MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替用水 タンク	(注14)	(注14)	114.3	6.0	SUS304TP
							2.1	95	／	／		
									114.3	6.0		
								(注3, 65)	(注3, 65)			
									114.3	6.0	(注65)	
									／	／		
									114.3	6.0	SUS27TP	
									／	／		
									—	—		

(次ページに続く)

別添1(4/12)
(令和2年9月25日)

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注66) 内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(1MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替用水 タンク	(注14) 2.1	(注14) 95	(注3) 114.3 / - / 114.3	(注3) 6.0 / - / 6.0	SUS304TP

(次ページに続く)

83

別添1 (5/12)
(令和2年9月25日)

84

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
						(注66)			(注3, 65)	(注3, 65)	(注65)
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	内部スプレ クーラ			114.3	6.0	SUS27TP
						出口テスト ライン分岐点 ～	(注14)	(注14)	(注3)	(注3, 37)	
						弁(1MOV-6496 A、B) ～	2.7	150	114.3	6.0	
						燃料取替用水 タンク			/	/	SUS304TP
									114.3	6.0	

別添1 (6/12)
(令和2年9月25日)

85

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	18.8	150	(注3, 65)	(注3, 65)	(注65)	
					充てん配管 分岐点 ～ 弁(1V-8579) ～ 充てん配管 合流点				60.3	8.7	SUS27TP	
					(注3)				(注3, 37)	60.5	8.7	SUS304TP
					(注3)				(注3, 37)	89.1	11.1	SUS304TP
							(注3, 65)	(注3, 37, 65)	(注65)	89.1	11.1	SUS304TP

(次ページに続く)

別添1 (7/12)
(令和2年9月25日)

86

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備			(注3)	(注3)		
									89.1	11.1		
									/	/		SUS304TP
									60.5	8.7		
									(注3, 65)	(注3, 65)		
									89.1	11.1		(注65)
							(注14)	(注14)	/	/	SUS304TP	
							18.8	150	60.5	8.7		
									(注3)	(注3)		
									89.1	11.1		
								/	/			
								89.1	11.1		SUS304TP	
								/	/			
								-	-			

別添1 (8/12)
 (令和2年9月25日)

87

変更前					変更後								
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
						(注68)	(注14)	(注14)	(注3)	(注3)			
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	0	40	165.2	7.1	SUS304TP		
									(注3)	(注3)	89.1	5.5	SUS304TP
							(注14)	(注14)	(注3)	(注3,37)	165.2	7.1	SUS304TP
							1.3	40	(注3)	(注3)	165.2	7.1	SUS304TP
										/	/		
										-	-		
										/	/		
										89.1	5.5		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (1-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

別添1 (9/12)
(令和2年9月25日)

- (注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注6) 重大事故等時に使用
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8926）」と記載
- (注9) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8926）～弁（1-LCV-115D、E）」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁（1-8811A、B）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8811A、B）～弁（1-8812A、B）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8958）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8958）～弁（1-8809A、B）」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁（1-5400）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジャーサ（4×3）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ（4×3）～レジャーサ（4×3）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ（4×3）～弁（1-8803A、B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8803A、B）～ほう酸注入タンク入口レジャーサ（6×3）」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジャーサ（6×3）～弁（1-8801A、B）」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8801A、B）～格納容器」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジャーサ（4×3）」と記載

83

別添1 (10/12)
(令和2年9月25日)

- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×3) ～レジューサ (4×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×3) ～弁 (1-8815)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8815) ～格納容器」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク入口ラインレジューサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8816)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8816) ～格納容器」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの高圧ラインのレジューサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8814)」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8814) ～格納容器」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8818A、B) ～格納容器」と記載
- (注35) 余熱除去設備と兼用
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの注入母管分岐点～弁 (1-8819)」と記載
- (注37) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8819) ～格納容器」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #229～分岐点」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8944A、B、C)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8944A、B、C) ～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注43) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / (最小) 9.5 / -」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #262～分岐点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8942A、B、C)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点」と記載
- (注48) エルボを示す。

- 90/E
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #261～分岐点」と記載
 - (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8939A、B、C)」と記載
 - (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #276～分岐点」と記載
 - (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8937A、B、C)」と記載
 - (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点およびレジューサ (6×2)」と記載
 - (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8937C) 及び弁 (1-8939C) ～弁 (1-8940C)」と記載
 - (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / (最小) 9.5 / (最小) 9.5」と記載
 - (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #263、224～分岐点」と記載
 - (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁 (1-8973A、C) および弁 (1-8972A、B) を経て弁 (1-8973B)」と記載
 - (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8973A、B、C) ～弁 (1-8945A、B、C)」と記載
 - (注59) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
 - (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #258～分岐点」と記載
 - (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁 (1-8935A、B)」と記載
 - (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8935A、B) ～弁 (1-8940A、B)」と記載
 - (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁 (1-8808A、B、C)」と記載
 - (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8808A、B、C) ～弁 (1-8948A、B、C)」と記載
 - (注65) 本設備は既存の設備である。
 - (注66) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
 - (注67) SUS32TP同等材 (SUS316TP) への取替えを行う。
 - (注68) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
 - (注69) SUS27TP同等材 (SUS304TP) への取替えを行う。

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名：原子炉冷却系統施設

系統名：原子炉補機冷却設備
主配管（常設）

要領書番号：原規規収第1610071号1-04-1

令和元年11月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機

2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査

3 検査申請 使用前検査申請番号

関原発第299号(平成28年10月 7日)

関原発第434号(平成30年 3月20日)

関原発第 46号(平成30年 4月20日)

関原発第202号(平成30年 7月 4日)

関原発第259号(平成30年 8月20日)

関原発第415号(平成30年12月 5日)

関原発第504号(平成31年 2月 1日)

関原発第512号(平成31年 2月 6日)

関原発第582号(平成31年 3月18日)

関原発第 3号(平成31年 4月 4日)

関原発第 68号(令和元年 5月16日)

関原発第115号(令和元年 6月24日)

関原発第204号(令和元年 8月23日)

4 検査期日 自 平成31年4月10日

至 令和元年11月20日

5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所

福井県大飯郡高浜町田ノ浦

三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場

広島県呉市宝町

- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
発電用原子炉施設
原子炉冷却系統施設
原子炉補機冷却設備
主配管（常設）一式
- 7 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 9 添付資料 使用前検査記録
- 1 検査前確認事項
 - 2 材料検査記録
 - 3 寸法検査記録
 - 4 外観検査記録
 - 5 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
 - 6 耐圧検査、漏えい検査記録
 - 7 検査用計器一覧表

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成31年 4月10日	高須 洋司  環境技官 河田 拓也 	ボイラー - タービン 主任技術者 	なし
令和元年 7月31日	平井 隆  水戸 侑哉 	ボイラー - タービン 主任技術者 	なし
令和元年 10月2日	河田 拓也 	ボイラー - タービン 主任技術者 	なし
令和元年 11月20日	上田 洋 	ボイラー - タービン 主任技術者 	なし

u

検査結果一覧表

系統名：原子炉補機冷却設備 主配管（常設）

検査項目	材料検査	寸法検査	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	耐圧検査、 漏えい検査	備考
検査日	平成31年 4月10日	平成31年 4月10日	平成31年 4月10日	年 月 日	平成31年 4月10日	
結果	良	良	良	/	良	
検査日	令和元年 7月31日	令和元年 7月31日	令和元年 7月31日	令和元年 7月31日	令和元年 7月31日	
結果	良	良	良	良	良	
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	令和元年 10月2日	年 月 日	
結果	/	/	/	良	/	
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	令和元年 11月20日	年 月 日	
結果	/	/	/	良	/	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
		令和元年 11月20日	良	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
		令和元年 11月20日	良	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
		令和元年 11月20日	良	

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

寸法検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
		令和元年 11月20日	良	
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
		令和元年 11月20日	良	
		年 月 日		

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年4月10日	良	
		令和元年7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年4月10日	良	
		令和元年7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録等確認	平成31年4月10日	良	
		令和元年7月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	平成31年4月10日	良	
	立会/ 記録確認	令和元年7月31日	良	
	立会/ 記録確認	年 月 日		
	立会/ 記録確認	年 月 日		

高浜発電所第1号機				
材料検査記録				
検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所				
検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式				
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。				
検査対象	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッド レジューサ(36×30) 及び 海水供給母管Bヘッド分岐点	SS400	令和元年 7月31日	良	記録確認
海水供給母管Aヘッド レジューサ(36×30) ～ 海水供給母管Bヘッド分岐点	SS400	平成31年 4月10日	良 ^{※1}	
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	SS400	令和元年 7月31日	良	
備考 ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 ※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503 ※1：詳細は別紙参照				

高浜発電所第1号機				
材料検査記録				
検査場所： 三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所				
検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式				
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。				
検査対象	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッド レジューサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッド分岐点	SS400	年 月 日		記録確認
海水供給母管Aヘッド レジューサ (36×30) ～ 海水供給母管Bヘッド分岐点	SS400	令和元年 7月31日	良 ^{*1}	
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	SS400	年 月 日		
備考 ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 ※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503 ※1：詳細は別紙参照				

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社~~ 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設
 原子炉補機冷却設備
 主配管（常設）：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点	SS400	令和元年 7月31日	良	記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口(埋設部を除く)	SS400	令和元年 7月31日	良	
中間建屋出口(埋設部を除く) ～ 屋外放出端	SS400	令和元年 7月31日	良	

備考

- 記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503.

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 吳干場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象	外径 (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査結果	検査方法	
	主要寸法 ^{※2}	許容値 ^{※3}	測定値	主要寸法 ^{※2}	許容値 ^{※3}	測定値 ^{※4}				
中間建屋入口A、B系 ~ 海水供給母管Aヘッダ レジューサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッダ分岐点 (次頁へ続く)	管継手	914.4	909.6~920.8	916.3~916.8	12.7	11.1以上	24.5	令和元年 7月31日	良	記録確認
	管継手	762.0	757.2~768.4	764.0~765.1	12.7	11.1以上	15.5			
	管継手	914.4	909.6~920.8	914.9 ~ 916.8	12.7	11.1以上	13.4			
	管継手	914.4	909.6~920.8	913.1~913.9	12.7	11.1以上	12.4	令和元年 7月31日	良	
	管継手	762.0	757.2~768.4	762.7~762.8	12.7	11.1以上	12.9			

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。

※1：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0503

※2：公称値 ※3：許容値はJISによる。 ※4：最小値

カ

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社~~ 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象	外径 (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査結果	検査方法
	主要寸法 ^{※2}	許容値 ^{※3}	測定値	主要寸法 ^{※2}	許容値 ^{※3}	測定値 ^{※4}			
(前頁からの続き)			916.1						
中間建屋入口A、B系	914.4	909.6~920.8	916.1 ~ 916.1	12.7	11.1以上	24.5	令和元年 7月31日	良	記録確認
~	/	/	913.9	/	/	/			
海水供給母管Aヘッド	914.4	909.6~920.8	914.7	12.7	11.1以上	24.4			
レジャーサ(36×30)	/	/	/	/	/	/			
及び	-	-	-	-	-	-			
海水供給母管Bヘッド									
分岐点									

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。

※1：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※2：公称値 ※3：許容値はJISによる。 ※4：最小値

15

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象		外径(mm)			厚さ(mm)			検査年月日	検査結果	検査方法
		主要寸法 ^{*2}	許容値 ^{*3}	測定値	主要寸法 ^{*2}	許容値 ^{*3}	測定値 ^{*4}			
海水供給母管Aヘッダ レジャーサ(36×30) ～ 海水供給母管Bヘッダ 分岐点	管継手	762.0	757.2～768.4	763.0～763.1	12.7	11.1以上	25.1	令和元年 7月31日	良	記録確認
		/	/	/	/	/	/			
		762.0	757.2～768.4	762.9～763.6	12.7	11.1以上	25.0			
	/	/	/	/	/	/				
	/	/	/	/	/	/				
	762.0	757.2～768.4	761.2～763.7	12.7	11.1以上	15.8	平成31年 4月10日	良 ^{*5}		
	/	/	/	/	/	/				
	762.0	757.2～768.4	762.4～762.6	12.7	11.1以上	24.9				
	/	/	/	/	/	/				
/	/	/	/	/	/					
609.6	604.8～616.0	610.9～613.4	12.7	11.1以上	15.3	令和元年 7月31日	良 ^{*5}			
/	/	/	/	/	/					
762.0	757.2～768.4	762.8～763.0	12.7	11.1以上	24.1					
/	/	/	/	/	/					
/	/	/	/	/	/					
609.6	604.8～616.0	610.7～611.4	12.7	11.1以上	14.0					

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。

※1：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※2：公称値

※3：許容値はJISによる。

※4：最小値

※5：詳細は別紙参照

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場~~ 関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象		外径 (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査結果	検査方法
		主要寸法 ^{※2}	許容値 ^{※3}	測定値	主要寸法 ^{※2}	許容値 ^{※3}	測定値 ^{※4}			
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラ A、B、C	管継手	762.0	757.2～768.4	764.3 ～ 766.0	12.7	11.1以上	13.5	令和元年 7月31日	良	記録確認
	管継手	762.0	757.2～768.4	764.0～765.8	12.7	11.1以上	13.0	令和元年 7月31日	良	
		609.6	604.8～616.0	609.9～611.4	12.7	11.1以上	13.0			

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。

※1：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0503

※2：公称値 ※3：許容値はJISによる。 ※4：最小値

61

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社~~ 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象		外径 (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査結果	検査方法
		主要寸法※2	許容値※3	測定値	主要寸法※2	許容値※3	測定値※4			
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点 (次頁へ続く)	管継手	914.4	909.6～920.8	915.3～917.9	12.7	11.1以上	13.0	令和元年 7月31日	良	記録確認
	管継手	914.4	909.6～920.8	917.1～918.1	12.7	11.1以上	12.9	令和元年 7月31日	良	
	管継手	914.4	909.6～920.8	915.1～916.1	12.7	11.1以上	24.0	令和元年 7月31日	良	
		914.4	909.6～920.8	915.7～915.7	12.7	11.1以上	24.2			
		609.6	604.8～616.0	609.2～612.4	12.7	11.1以上	13.8			
	管継手	914.4	909.6～920.8	915.4～915.9	12.7	11.1以上	24.1	令和元年 7月31日	良	
		914.4	909.6～920.8	914.7～915.0	12.7	11.1以上	24.2			
		609.6	604.8～616.0	609.1～611.8	12.7	11.1以上	14.4			

備考 ・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。 ※1：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※2：公称値 ※3：許容値はJISによる。 ※4：最小値

81

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象		外径 (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査結果	検査方法
		主要寸法※2	許容値※3	測定値	主要寸法※2	許容値※3	測定値※4			
(前頁からの続き)										
海水戻り母管分岐点 A	管継手	914.4	909.6~920.8	915.4~916.7	12.7	11.1以上	23.8	令和元年 7月31日	良	記録確認
~		/	/	/	/	/	/			
海水戻り母管合流点		609.6	604.8~616.0	608.9~613.0	12.7	11.1以上	14.0			
海水戻り母管合流点	管継手			915.1				令和元年 7月31日	良	記録確認
~ 中間建屋出口 (埋設部を除く)		914.4	909.6~920.8	~ 917.3	12.7	11.1以上	13.3			

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。

※1：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0503

※2：公称値 ※3：許容値はJISによる。 ※4：最小値

61

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社~~ 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容値を満足すること。

検査対象		外径 (mm)			厚さ (mm)			検査年月日	検査結果	検査方法
		主要寸法 ^{*2}	許容値 ^{*3}	測定値	主要寸法 ^{*2}	許容値 ^{*3}	測定値 ^{*4}			
中間建屋出口 (埋設部を除く) ~ 屋外放出端	管継手	609.6	604.8~616.0	610.0 ~ 610.8	12.7	11.1以上	13.5	令和元年 7月31日	良	記録確認
	管継手	914.4	909.6~920.8	916.3 ~ 918.6	12.7	11.1以上	13.4	令和元年 7月31日	良	

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。

※1：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※2：公称値 ※3：許容値はJISによる。 ※4：最小値

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設
 原子炉補機冷却設備
 主配管（常設）：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッドレギュレーサ(36×30)及び 海水供給母管Bヘッド分岐点	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
海水供給母管Aヘッドレギュレーサ(36×30) ～ 海水供給母管Bヘッド分岐点	平成31年 4月10日	良 ^{*1}	目視 / 記録確認
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口（埋設部を除く）	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
中間建屋出口（埋設部を除く） ～ 屋外放出端	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※1：詳細は、別紙参照

高浜発電所第1号機			
外観検査記録			
検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式			
判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッダレジューサ(36×30)及び 海水供給母管Bヘッダ分岐点	年 月 日		目視 / 記録確認
海水供給母管Aヘッダレジューサ(36×30) ～ 海水供給母管Bヘッダ分岐点	令和元年 7月31日	良 ^{※1}	目視 / 記録確認
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	年 月 日		目視 / 記録確認
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点	年 月 日		目視 / 記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口（埋設部を除く）	年 月 日		目視 / 記録確認
中間建屋出口（埋設部を除く） ～ 屋外放出端	年 月 日		目視 / 記録確認
備 考			
・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。			
※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503			
※1：詳細は別紙参照。			

高浜発電所第1号機			
組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 興工場、関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッダレジューサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッダ分岐点	令和元年 7月31日	良 ^{※1}	目視 ／ 記録確認
海水供給母管Aヘッダレジューサ (36×30) ～ 海水供給母管Bヘッダ分岐点	令和元年 7月31日	良 ^{※1}	目視 ／ 記録確認
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	年 月 日		目視 ／ 記録確認
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点	年 月 日		目視 ／ 記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口（埋設部を除く）	年 月 日		目視 ／ 記録確認
中間建屋出口（埋設部を除く） ～ 屋外放出端	年 月 日		目視 ／ 記録確認
備 考			
<ul style="list-style-type: none"> ・据付け後の外観確認も含めて実施 ・フランジ部の施工状態の確認及び通常運転圧力によるフランジ部の漏えい確認については、申請者の品質記録に（※）による。 ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 			
※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503			
※1：詳細は別紙参照。			

高浜発電所第1号機			
組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社一貫工場、関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッドレギュレーサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッド分岐点	年 月 日		目視 ／ 記録確認
海水供給母管Aヘッドレギュレーサ (36×30) ～ 海水供給母管Bヘッド分岐点	令和元年 10月2日	良 ^{*1}	目視 ／ 記録確認
海水供給母管分岐点 ～ I次系冷却水クーラA、B、C	年 月 日		目視 ／ 記録確認
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点	令和元年 10月2日	良 ^{*1}	目視 ／ 記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口（埋設部を除く）	令和元年 10月2日	良 ^{*1}	目視 ／ 記録確認
中間建屋出口（埋設部を除く） ～ 屋外放出端	令和元年 10月2日	良 ^{*1}	目視 ／ 記録確認
備考			
<ul style="list-style-type: none"> ・据付け後の外観確認も含めて実施 ・フランジ部の施工状態の確認及び通常運転圧力によるフランジ部の漏えい確認については、申請者の品質記録に（※）による。 ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 			
※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503			
※1：詳細は別紙参照			

高浜発電所第1号機			
組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所： 三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場 、関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッダレギュレーサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッダ分岐点	令和元年 11月20日	*1 良	目視 / 記録確認
海水供給母管Aヘッダレギュレーサ (36×30) ～ 海水供給母管Bヘッダ分岐点	令和元年 11月20日	*1 良	目視 / 記録確認
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	令和元年 11月20日	*1 良	目視 / 記録確認
海水戻り母管分岐点A ～ 海水戻り母管合流点	年 月 日		目視 / 記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口（埋設部を除く）	年 月 日		目視 / 記録確認
中間建屋出口（埋設部を除く） ～ 屋外放出端	年 月 日		目視 / 記録確認
<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・据付け後の外観確認も含めて実施 ・フランジ部の施工状態の確認及び通常運転圧力によるフランジ部の漏えい確認については、申請者の品質記録に（※）による。 ・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。 <p>※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503 *1：詳細は別紙参照</p>			

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社 高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。
・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 (MPa) ^{*1}	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
中間建屋入口A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッド レジューサ(36×30)及び 海水供給母管Bヘッド分岐点	0.7	0.7	0.72	//	0.72	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
	1.2	1.2	1.21	12	1.21	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
1.25			13	1.25					

備考

※1：重大事故等時における使用時の値

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0503

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社 高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。
・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 (MPa)*1	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
海水供給母管Aヘッダ レジャーサ(36×30)	0.7	0.7	0.72	11	0.72	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
～ 海水供給母管Bヘッダ分岐点	1.2	1.2	1.21	11	1.20	水圧	平成31年 4月10日	良*3	目視 / 記録確認
海水供給母管分岐点 ～ 1次系冷却水クーラA、B、C	0.7	0.7	0.72	11	0.72	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認

備考

※1：重大事故等時における使用時の値

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※3：詳細は、別紙参照

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社 興工場~~ 関西電力株式会社 高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。
・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 (MPa)※1	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
海水供給母管Aヘッド レジャーサ(36×30)	0.7	0.7				水圧	年 月 日		目視 / 記録確認
~ 海水供給母管Bヘッド分岐点	1.2	1.2	1.25	13	1.25	水圧	令和元年 7月31日	良※3	目視 / 記録確認
海水供給母管分岐点 ~ 1次系冷却水クーラA、B、C	0.7	0.7				水圧	年 月 日		目視 / 記録確認

備考

※1：重大事故等時における使用時の値

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※3：詳細は別紙参照

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場~~、関西電力株式会社 高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。
・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 (MPa) ^{※1}	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査結果	検査方法
海水戻り母管分岐点 A ～ 海水戻り母管合流点	0.7	0.7	0.72	12	0.72	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
海水戻り母管合流点 ～ 中間建屋出口（埋設部を除く）	0.7	0.7	0.72	12	0.72	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認
中間建屋出口（埋設部を除く） ～ 屋外放出端	0.7	0.7	0.72	12	0.72	水圧	令和元年 7月31日	良	目視 / 記録確認

備考

※1：重大事故等時における使用時の値

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査用計器一覽表

検査年月日：平成31年4月10日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019.4.1	
					2019.10.1	
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019.2.5	
					2019.8.5	

31



検査範囲図 (系統図)



34

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-04-2

令和2年9月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-04-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自令和2年9月16日
至令和2年9月16日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-2

検査年月日	検査結果	原子力  検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
ω 令和2年 9月16日	良	平井 隆  増本 豊 	ホーワーズン 主任技術者 	なし

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-04-2

検査年月日：令和2年 9 月 16 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	⓪・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	⓪・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	⓪・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-04-2

検査年月日：令和2年 9月16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-2

検査年月日：令和2年 9月16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503（その2） ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(工事の計画の認可 平成28年6月10日認可)

変更前						変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料		
原子炉補機冷却設備	0.7	40	609.6	10	SS400	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし				
			914.4	12	SS41				変更なし				
			914.4	12	SS400				914.4	12	SB410		
	0.7	40	914.4	12	SS41				914.4	12	SS41		
(注62)	(注2)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)		
海水ポンプ ～ Aa、Ab 海水ストレーナ 及び 中間建屋入口 (B系)								914.4	12	SS400	914.4	12	SB410
								914.4	12	SS400	914.4	12	SB410
								914.4	12	SS400	914.4	12	SB410
								914.4	12	SS400	914.4	12	SB410

: 検査対象範囲

別添1-1
(令和2年9月16日)

8

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 Aa、Ab 海水ストレーナ ～ 中間建屋入口 (A系)	(注2) 0.7	40	(注3) 914.4	(注3) 12	SS41	変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし	変更なし		
			(注3) 914.4	(注3) 12	(注63) SS400				(注3) 914.4	(注3) 12	SM400B
	(注3) 914.4	(注3) 15	SB480	(注3) 914.4	(注3) 25				SB480		
	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 5, 6) 914.4	(注3, 5, 6) 12	(注5, 6) SS41						

 : 検査対象範囲

- 6
- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載
 - (注2) SI単位に換算したものである。
 - (注3) 公称値
 - (注4) 重大事故等時における使用時の値
 - (注5) 本設備は既存の設備である。
 - (注6) エルボを示す。
 - (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載
 - (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載
 - (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載
 - (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載
 - (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
 - (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
 - (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載
 - (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
 - (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
 - (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
 - (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
 - (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
 - (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載
 - (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
 - (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C」と記載
 - (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラB」と記載
 - (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載
 - (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
 - (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプ (RC-3) A、B、Cへの分岐点」と記載
 - (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～レジューサ (8×6)」と記載
 - (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～弁 (1-FCV-1241)」と記載
 - (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (1-5105A、B)」と記載
 - (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
 - (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクーラ」と記載

- 10
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
 - (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
 - (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系冷却水戻り母管合流点」と記載
 - (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジューサ (3×2)」と記載
 - (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
 - (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (4×2)」と記載
 - (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
 - (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジューサ (2×1 1/2)」と記載
 - (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ」と記載
 - (注40) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 - (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (1×1/2)」と記載
 - (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ」と記載
 - (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ～レジューサ (1×1/2)」と記載
 - (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～レジューサ (2×1 1/2)」と記載
 - (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
 - (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2)」及び「レジューサ (3×2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン合流点」と記載
 - (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
 - (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～充てん/高圧注入ポンプ」と記載
 - (注49) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
 - (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～充てん/高圧注入ポンプ出口分岐点」と記載
 - (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口分岐点～充てんポンプ室空調装置冷却もどりライン合流点」と記載
 - (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～計器用コンプレッサパッケージ」と記載
 - (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
 - (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×6) および (12×8)」と記載
 - (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) ～レジューサ (6×4)」と記載
 - (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (4×2)」と記載
 - (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ (4×2) および合流点」と記載
 - (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載

- 11/2
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載
 - (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (12×6)」と記載
 - (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) および (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
 - (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
 - (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
 - (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～レジューサ (36×30)」と記載
 - (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (36×30) ～ティ (36×36×30)」と記載
 - (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～1次系冷却水クーラ」と記載
 - (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～海水戻母管分岐点」と記載
 - (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (36×36×24) ～中間建屋出口 (埋設部を除く)」と記載
 - (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジューサ (10×8)」と記載
 - (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×8) ～ディーゼル発電機」と記載
 - (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8)」と記載
 - (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (16×12)」と記載
 - (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～海水戻母管合流点」と記載
 - (注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
 - (注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
 - (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
 - (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610071号99

成績書管理番号 : 1-04-3

令和2年6月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-04-3

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年6月15日
至 令和2年6月15日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第299号(平成28年10月 7日)
	関原発第434号(平成30年 3月20日)
	関原発第 46号(平成30年 4月20日)
	関原発第202号(平成30年 7月 4日)
	関原発第259号(平成30年 8月20日)
	関原発第415号(平成30年12月 5日)
	関原発第504号(平成31年 2月 1日)
	関原発第512号(平成31年 2月 6日)
	関原発第582号(平成31年 3月18日)
	関原発第 3号(平成31年 4月 4日)
	関原発第 68号(2019年 5月16日)
	関原発第115号(2019年 6月24日)
	関原発第204号(2019年 8月23日)
	関原発第478号(2020年 1月23日)
	関原発第510号(2020年 1月31日)
	関原発第542号(2020年 2月26日)
	関原発第609号(2020年 3月24日)
	関原発第 20号(2020年 4月 7日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月15日	良	原子力検査官 平沢 淳  河田 拓也 	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和2年 6 月 15 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和2年 6月 15日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・－	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・－	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・－	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・－	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和2年 6 月 15 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">良</div>	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0207、T1-1-0310 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

設 備 概 要

原子炉冷却系統施設

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(次ページより記載)

7

変更前					変更後				
名	種	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	口径 (mm)	厚さ (mm)	材料	料
原付機冷却設備									
	B使用済					34.0	3.4	STPT370	
	燃料ピットクローブ					34.0	3.4	STPT370	
	供給配管分岐点					34.0	3.4	STPT370	
	格納容器雰囲気					34.0	3.4	STPT370	
	ガスサンブ					34.0	3.4	STPT370	
	リング冷却器					34.0	3.4	STPT370	
	格納容器雰囲気	1.2	95			34.0	3.4	STPT370	
	ガスサンブ					34.0	3.4	STPT370	
	リング冷却器					34.0	3.4	STPT370	
	出口配管分岐点					34.0	3.4	STPT370	
	弁 (IV-45204)					34.0	3.4	STPT370	
	下流側取合点					34.0	3.4	STPT370	

変 更 前					変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
						可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 入口配管分岐点 ～ 可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 入口接続点	0.33	40	34.0	3.4	STPT370

原子炉連機冷却設備

2

6

変 更 前					変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
						可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口接続点 ～ 可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口配管合流点	(注4) 0.33	(注4) 40	(注3) 34.0	(注3、4) 3.4	STPT370	3

12/E

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					原子炉 補機 冷却 設備					
					窒素ポンペライン			27.2	2.9	
					ホース接続口			/	/	
					1次系	0.34	95	/	/	STPT370
					冷却水タンク			27.2	2.9	

3

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-04-4

令和 2 年 9 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-04-4

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和 2 年 9 月 30 日
至 令和 2 年 9 月 30 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
ω 令和 2 年 9 月 30 日	良	福富 晋一 	ボイラー-タービン主任技術者 	なし

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日：令和 2 年 9 月 30 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日：令和 2 年 9 月 30 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日：令和 2年 9月 30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0215 ・目視で確認した範囲：—			

設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606104号（平成28年6月10日認可））

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

(次ページに続く)

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水クーラ A、B、C ～ 供給母管 1次系 冷却水クーラ A、B、C 分岐点	(注1)	(注2)	(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし				
	0.98	95	406.4	9.5	SS41		(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
	-						0.98	95	406.4	9.5	SS41
	(注2)	(注3)	(注3)	SS41	変更なし						
0.98	95	406.4	9.5	SS41	(注4)	変更なし					
-					1.2	変更なし					
-					(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	SS41	
-					1.2	95	(注3, 5)	(注3, 5)	SS41		
-					406.4	9.5	/		/		
-					406.4	9.5	/		/		
-					406.4	9.5	/		/		
-					406.4	9.5	/		/		

(次ページに続く)

6

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注1)					原子炉補機冷却設備			(注3)	(注3)		
	1次系 冷却水クーラ A、B、C ～ 供給母管			—			変更なし	(注4)	(注4)	406.4	9.5	
	1次系 冷却水クーラ A、B、C 分岐点							1.2	95	406.4	9.5	SM400B
									216.3	8.2		

10

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注7) 供給母管 1次系 冷却水クーラA 分岐点 ~ 供給母管 1次系 冷却水クーラC 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	原子炉補機冷却設備	変更なし				
						変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注7) 供給母管 1次系 冷却水クーラA 分岐点 ～ 供給母管 1次系 冷却水クーラC 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41							

12

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注8) 供給母管 1次系 冷却水クーラC 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
	1次系機器冷却水 母管分岐点 充てん/高圧 注入ポンプ行き			-				(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 508.0	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41

13

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注10) 原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水クーラB 出口ライン分岐点 ~ 1次系機器冷却水 母管分岐点 格納容器循環 冷暖房ユニット 行き	(注2)		(注3)	(注3)		変更なし					
	0.98	95	406.4	9.5	SS41	(注4) 変更なし			変更なし		
						1.2			(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									(注3, 5)	(注3, 5)	
原子炉補機冷却設備 変更なし						変更なし					
									406.4	9.5	SS41
									406.4	9.5	(注5)
									406.4	9.5	STPT38
						(注4)	(注4)				
						1.2	95				
									(注3, 5)	(注3, 5)	
									406.4	9.5	
											(注5)
											SS41
									323.9	9.5	

(令和2年9月30日)

別添1 (7/73)

14

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注12) 1次系機器冷却水 戻り母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り ~ Cヘッド戻り 合流点	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
	0.98	95	406.4	9.5	SS41		161				
									(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									406.4	9.5	SS41
									(注3, 5)	(注3, 5)	
							(注4)	(注4)	406.4	9.5	
							0.98	161	/	/	(注5)
									406.4	9.5	STPT38
									/	/	
									-	-	

(令和2年9月30日)

別添1 (8/73)

15

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注14) 内部スプレ クーラA、B下流 レジューサ (20×14) ～ 1次系 冷却水タンク 連絡配管接続点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし				
	(注14) 1次系 冷却水タンク 連絡配管接続点 ～ 1次系 冷却水ポンプ A、D 入口ライン合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし				
		(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 508.0	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41	変更なし				

(令和2年9月30日)

別添1 (9/73)

91

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注15) 原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水ポンプA 入口ライン合流点 ~ 1次系 冷却水ポンプD 入口ライン合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41
							(注4) 0.98	(注4) 161			
									(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41
									(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41
									(注3,5) 406.4	(注3,5) 9.5	

(令和2年9月30日)

別添1 (10/73)

17

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水ポンプ A、B、C、D、 入口ライン合流点 ～ 1次系 冷却水ポンプ A、B、C、D	(注16) (注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 161	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
	(注3) 508.0		(注3) 9.5	SS41							
			(注3, 5, 6) 406.4		(注3, 5, 6) 9.5		(注5, 6) SS41				
			(注4) 0.98	(注4) 161	(注3, 5) 508.0		(注3, 5) 9.5	(注5) SS41			

(令和2年9月30日)

別添1 (11/73)

18

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注17)	(注2)	(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし		
	0.98	95	406.4	9.5	161		変更なし				
							0.98	161	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									406.4	9.5	SS41
					0.98	161	(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)		
							406.4	9.5	SS41		
					0.98	161	—	—			
							323.9	9.5			

61

変更前							変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材	料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材	料
	圧力	温度						圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
原子炉補機冷却設備	(注18) 1次系 冷却水ポンプA 出口ライン分岐点 ~ 1次系 冷却水ポンプD 出口ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし (注4) 161	変更なし			
								変更なし	(注4) 0.98	(注4) 161	(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41
										406.4	9.5		

20

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
原子炉補機冷却設備	(注19)	(注2)	(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし				
	1次系	0.98	95	508.0	9.5		変更なし	161					
	冷却水ポンプ A、D						変更なし	0.98	161	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	
	出口ライン分岐点 ～									508.0	9.5	SS41	
1次系	(注3, 5)									(注3, 5)	(注5)		
冷却水クーラ A、C	508.0	9.5	SS41										
入口ライン合流点									406.4	9.5			

21

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
(注20) 原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水クーラ A、C 入口ライン合流点 ~ 1次系 冷却水クーラ B上流 レジューサ (20×16)	(注2)		(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし			
	0.98	95	508.0	9.5			161					
										(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
										508.0	9.5	SS41
										(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)
										508.0	9.5	SS41
								—	—	SS41		
							(注4)	(注4)	406.4	9.5		
	0.98						0.98	161				
									(注3, 5)	(注3, 5)		
									508.0	9.5		
									—	—	(注5)	
									508.0	9.5	SS41	
									—	—		
									508.0	9.5		

(令和2年9月30日)

別添1 (15/73)

12

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注21) 1次系 冷却水クーラ A、C 入口ライン合流点 ～ 1次系 冷却水クーラ A、C	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
								(注4) 161			
							(注4) 0.98	(注4) 161	(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41
原子炉補機冷却設備	(注22) 1次系 冷却水クーラ B上流 レジャーサ (20×16) ～ 1次系 冷却水クーラB	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
								(注4) 161			
							(注4) 0.98	(注4) 161	(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41

(令和2年9月30日)

別添1 (16/73)

23

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水タンク 連絡配管接続点 ～ 弁(1V-5105A、B)	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし				
							(注3, 5, 6) 114.3	(注3, 5, 6) 6.0	(注5, 6) STPT42		
							(注3, 5) 114.3	(注3, 6) 8.6	(注5) STPT42		
							(注3, 5) 114.3	(注5) 5.2			
	(注4) 0.98	(注4) 95						5.2	(注5)		
							114.3	—	ASTM		
							114.3	—	A105		
							—	(注3) 6.0	Gr II		
							—	—	(S25C 相当)		
								6.0			
								—			

(令和2年9月30日)

別添1 (17/73)

27

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注29) 弁(1V-5105A、B) ~ 1次系 冷却水タンク 原子炉補機冷却設備	(注2) 0.34	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	変更なし 原子炉補機冷却設備	変更なし				
							(注4) 0.34	(注4) 95	(注3, 5, 6) 114.3	(注3, 5, 6) 6.0	(注5, 6) STPT42
(注30) 1次系機器冷却水 母管分岐点 A使用済燃料 ピットクーラ行き ~ A使用済燃料 ピットクーラ 原子炉補機冷却設備	(注2) 0.98	95	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG42	変更なし					

25

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
(注30) 1次系機器冷却水 母管分岐点 B使用済燃料 ピットクーラ行き ～ B使用済燃料 ピットクーラ 供給配管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3)	(注3)		変更なし	変更なし	(注4) 1.2				
			(注3,40)	(注3,40)	(注40)							変更なし
			(注3,74)	(注3,74)	(注74)							
(注3,74)	(注3,74)	(注74)				(注4)	(注4)	(注3,5,6)	(注3,5,6)	(注5,6)		
(注30) B使用済燃料 ピットクーラ 供給配管分岐点 ～ B使用済燃料 ピットクーラ	(注2) 0.98	95	(注3,40)	(注3,40)	(注40)	変更なし	変更なし	(注4) 1.2	95	(注3,5,6)	(注3,5,6)	(注5,6)
			(注3,40)	(注3,40)	(注40)					(注3,5,6)	(注3,5,6)	(注5,6)
			(注3,74)	(注3,74)	(注74)					(注3,5,6)	(注3,5,6)	(注5,6)
(注3,74)	(注3,74)	(注74)						(注3,5,6)	(注3,5,6)	(注5,6)		

(令和2年9月30日)

別添1 (19/73)

26

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注34) 1次系機器冷却水 母管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	変更なし		
	B余熱除去ポンプ 他行き ～ B余熱除去ポンプ 及び 内部スプレ ポンプ室 空調装置 冷却ライン 入口配管分岐点	-					変更なし		(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 88.9
											(注3, 5) 88.9

(次ページに続く)

27

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注34) 1次系機器冷却水 母管分岐点 B余熱除去ポンプ 他行き ~ B余熱除去ポンプ 及び 内部スプレ ポンプ室 空調装置 冷却ライン 入口配管分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注3,5)	
								1.2	95	88.9	5.5

(令和2年9月30日)

別添1 (21/73)

8c

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
原子炉補機冷却設備 1次系機器冷却水 母管分岐点 充てん/高圧 注入ポンプ行き ～ 充てん/高圧 注入ポンプ室 B空調装置冷却 ライン分岐点	(注2)		(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし		変更なし				
	0.98	95	114.3	6.0			(注4)	1.2					
										(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	
										114.3	6.0	STPT42	
										(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)	
								114.3	8.6	STPT42			
							(注4)	1.2	(注4)	95	(注3, 5)	(注3, 5)	
									114.3	6.0			
									/	/		(注5)	
									-	-		STPT42	
									/	/			
									114.3	6.0			

(令和2年9月30日)

別添1 (22/73)

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注38)	(注2)		(注3)	(注3)		変更なし	1.2	変更なし				
	0.98	95	60.3	3.9	STPG42			(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)
原子炉補機冷却設備	B余熱除去ポンプ 及び 内部スプレ ポンプ室 空調装置 冷却ライン 入口配管 分岐点 ～ B余熱除去ポンプ 冷却ライン 分岐点					原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	95	61.1	6.0	Gr II (注3) (S25C 相当)
	88.9	4.8	(注5)	(注5)	(注5)							
									61.1	(注3) (5.5 6.0)	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	

69

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

別添1 (23/73)

30

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
(注38) B余熱除去ポンプ 及び 内部スプレ ポンプ室 空調装置 冷却ライン 入口配管 分岐点 ~ B余熱除去ポンプ 冷却ライン 分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	
							1.2	95	61.1	(最小)	6.0
									(差し込み部の内径)	/	
									61.1	/	(注5)
									(最小)	6.0	ASTM
									/	6.0	A105
									/		Gr II
									(差し込み部の内径)	(注3)	(S25C相当)
									61.1	/	
									/	6.0)	

(令和2年9月30日)

別添1 (24/73)

3/

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ 冷却ライン 分岐点 ~ B余熱除去ポンプ	(注2) 0.98	95	(注3, 40) 21.3	(注3, 40) 2.8	(注40) STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし	(注3, 5, 6) 21.7	(注5, 6) 4.0	(注5, 6) ASTM A105 Gr II (注3) (S25C 相当)
	(注3) 48.3		(注3) 3.7	(注3) STPG42	(注4) 1.2						(注4) 95

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

別添1 (25/73)

32

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
原子炉補機冷却設備	(注39)	B余熱除去ポンプ	冷却ライン	分岐点	～	B余熱除去ポンプ	1.2	95	15.4	4.0	ASTM A105
						変更なし			15.4	4.0	Gr II (S25C相当)
									15.4	4.0	

(次ページに続く)

33

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ 冷却ライン 分岐点 ～ B余熱除去ポンプ	(注39)					原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3.5)	(注5)	
											(最小) 5.5 (穴径) 40.5 5.5 (穴径) 40.5 5.5

(次ページに続く)

34

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注39)									(注3,5)	(注5)	
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					
B余熱除去ポンプ						変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	
冷却ライン							1.2	95	48.7	(最小)	
分岐点									(差し込み部の内径)	—	
~									48.7	—	(注5)
B余熱除去ポンプ									(差し込み部の内径)	(5.5)	ASTM
									48.7	—	A105
										5.5)	Gr. II
											(S25C相当)

(令和2年9月30日)

35

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ ～ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点	(注45)		(注3, 40)	(注3, 40)	(注40)	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし		変更なし			
	(注2)	0.98	95	21.3	2.8		STPG42	(注4) 変更なし				
				(注3)	(注3)			1.2		(注3)	(注3)	
				48.3	3.7		STPG42			48.3	3.7	STPT370
									(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)	
									48.3	3.7	STPT370	
							(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)	
							1.2	95	差し込み 部の内径)	(最小)	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	
									48.7	5.5	(注3) (5.5)	

(次ページに続く)

36

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ ～ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点	(注45)					原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注5)	
							1.2	95	(穴径) 15.4	(最小) 4.0	(注5) ASTM A105
								(穴径) 15.4	(最小) 4.0	(注3) (S25C 相当)	
											4.0)

(次ページに続く)

37

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注45)					原子炉補機冷却設備	(注4)	95	(注3)	(注3)	STPT370
									48.3	3.7	
									/	/	
									-	-	
B余熱除去ポンプ						変更なし	1.2		48.3	3.7	
~									(注3)	(注3)	
B余熱除去ポンプ									48.3	3.7	
出口配管分岐点									/	/	
									-	-	STPT370
									/	/	
									48.6	3.7	

(次ページに続く)

28

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B余热除去ポンプ ～ B余热除去ポンプ 出口配管分岐点	(注45)					原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3.5)	(注5)	(注5)
							1.2	95	48.7	(最小) 5.5	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
								(差し込み部の内径) 48.7	5.5	(注3)	
								(差し込み部の内径) 48.7	(5.5)		
									5.5)		

(令和2年9月30日)

別添1 (32/73)

39

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
<small>(注47)</small> 充てん／高圧 注入ポンプ室 B空調装置冷却 ライン分岐点 ～ B充てん／高圧 注入ポンプ入口 分岐点	<small>(注2)</small> 0.98	95	<small>(注3)</small> 88.9	<small>(注3)</small> 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし <small>(注4)</small> 1.2	変更なし			
							<small>(注4)</small> 1.2	<small>(注4)</small> 95	<small>(注3,5)</small> 114.3 ／ 88.9	<small>(注3,5)</small> 6.0 ／ 5.5	<small>(注5)</small> STPT42

(次ページに続く)

AD

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 (注47) 充てん/高圧 注入ポンプ室 B空調装置冷却 ライン分岐点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	
							1.2	95	88.9	4.8	—
									—	—	(注5)
									—	(最小)	ASTM
									—	6.0	A105
									—	—	Gr II
									(差し込み	(注3)	(S25C
									部の内径)	(5.5	相当)
									61.1	—	
									—	6.0)	

(令和2年9月30日)

カ

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
							(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 60.3	(注3, 5, 6) 3.9	(注5, 6) STPT370
					(注4) 1.2	(注4) 95	(差し込み部の内径)	(注5, 49) (最小)	(注5) ASTM A105 Gr II (注3) (S25C 相当)		

(次ページに続く)

42

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注48)					原子炉補機冷却設備			(注3,5)	(注5)	
	B充てん/高压 注入ポンプ入口 分岐点 ~ B充てん/高压 注入ポンプ		-				変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(差し込み 部の内径) 61.1	(最小) 6.1
									(差し込み 部の内径) 61.1	(最小) 6.1	
									(差し込み 部の内径) 61.1	(最小) 6.1	

(令和2年9月30日)

43

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注4B)	(注2)	(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし					
	C充てん/高圧 注入ポンプ	0.98	95	60.3	3.9		変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
	冷却水入口配管 合流点	0.98	95	60.3	3.9					(注3)	(注3)	STPT370
	~									60.3	3.9	
C充てん/高圧 注入ポンプ	0.98	95	60.3	3.9	60.5	3.9	STPT370					

(次ページに続く)

力カ

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水入口配管 合流点 ～ C充てん/高圧 注入ポンプ			-			原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3,5) (差し込み 部の内径)	(注5) (最小) 6.1	S25C
									(注4) (差し込み 部の内径)	(注4) (差し込み 部の内径)	

45

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注50)					原子炉補機冷却設備	変更なし		変更なし		
	(注2)	(注3)	(注3)				(注4) 変更なし		(注3)	(注3)	
	0.98	95	60.3	3.9	STPG42		1.2		60.3	3.9	STPT370
							変更なし			(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)
B充てん/高圧 注入ポンプ ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点									60.3	3.9	STPT370
					(注4)	(注4)		(注3)	(注3)		
						1.2	95	60.5	3.9		
								/	/		
								-	-	STPT370	
								/	/		
								60.3	3.9		

(次ページに続く)

4カ

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注50) 原子炉補機冷却設備 B充てん/高圧 注入ポンプ ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	
									(差し込み部の内径)	(最小)	
									61.1	6.1	
									/	/	
								(注4)	(注4)	(注5)	
							1.2	95	(差し込み部の内径)	(最小)	S25C
									61.1	6.1	
									/	/	
									(差し込み部の内径)	(最小)	
									61.1	6.1	

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

47

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注50)					原子炉補機冷却設備			(注3,5)	(注5)	
	B充てん/高圧 注入ポンプ ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点						変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(差し込み部の内径) 61.1 / / (差し込み部の内径) 61.1	(最小) 6.1 / / (最小) 6.1

48

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 C充てん/高圧 注入ポンプ ～ C充てん/高圧 注入ポンプ 出口配管 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし				
							(注3, 5, 6) 60.3	(注3, 5, 6) 3.9	(注5, 6) STPT370		
	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5) (差し込み部の内径) 61.1	(注5) (最小) 6.1		(注5) S25C					
			(注3, 5) (差し込み部の内径) 61.1	(注5) (最小) 6.1		(注5) S25C					
			(注3, 5) (差し込み部の内径) 61.1	(注5) (最小) 6.1		(注5) S25C					

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

別添1 (42/73)

49

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注50) C充てん/高圧 注入ポンプ					原子炉補機冷却設備	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3,5) (差し込み部の内径)	(注5) 6.1	(注5) S25C
	C充てん/高圧 注入ポンプ 出口配管 分岐点								(注3,5) (差し込み部の内径)	(注5) 6.1	

50

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注51) 原子炉補機冷却設備 C充てん/高压 注入ポンプ 出口配管 分岐点 ~ C充てん/高压 注入ポンプ 冷却水 出口配管 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし				
	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3,5) 88.9	(注3,5) 5.5	(注5) STPT370						
(注3) 60.3			(注3) 3.9								
(注3) 88.9	(注3) 5.5	(注3) 60.5	(注3) 3.9	(注3) STPT370							
					(注3) 60.5	(注3) 3.9					

(令和2年9月30日)

別添1 (44/73)

51

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
計器用空気圧縮機 パッケージ ～ 1次系機器冷却水 戻り母管合流点 計器用空気圧縮機 パッケージより	(注53)		(注3, 40)	(注3, 40)	(注40)	原子炉補機冷却設備	変更なし				
		(注2)	(注3)	(注3)							
	0.98	95	60.3	3.9	STPG42						
1次系機器冷却水 母管分岐点 格納容器循環 冷暖房ユニット 行き ～ 弁(1MOV-5160A)	(注54)	(注2)	(注3)	(注3)		変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
	0.98	95	323.9	9.5	STPG42		(注4)	(注4)			
						変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
							1.2	95	323.9	9.5	STPT42

(令和2年9月30日)

別添1 (45/73)

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				(MPa)
原子炉補機冷却設備	(注54) 弁(1MOV-5160A) ~ 格納容器貫通部 PEN#256	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 138	変更なし		
	(注54) 格納容器貫通部 PEN#256 ~ 格納容器貫通部 PEN#256 下流分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備	(注4) 1.2	(注4) 138	変更なし		
	(注3, 5, 6) 323.9	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) STPT42									
(注3, 5) 323.9	(注3, 5) 9.5	(注5) STPT42										
										(注5) STPT42		

52

(令和2年9月30日)

別添1 (46/73)

53

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注55) 原子炉補機冷却設備 格納容器貫通部 PEN#256 下流分岐点 ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン レジューサ(6×4)	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし			変更なし			
	0.98	95	168.3	7.1	STPG42				(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	
									168.3	7.1	STPT42	
								(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)
								1.2	138	168.3	7.1	STPT42
								114.3	6.0			
								(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)		
								323.9	9.5	STPT42		
								168.3	7.1			

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

別添1 (47/73)

7-5

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 格納容器貫通部 PEN#256 下流分岐点 ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン レジューサ(6×4)						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注3,5)		
							1.2	138	168.3	7.1		
										/	/	(注5)
										168.3	7.1	STPT42
									/	/		
									168.3	7.1		

55

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
(注56) A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン レジューサ(6×4) ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン上流 レジューサ(4×2) 及び分岐点	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備	1.2	138	変更なし		
	0.98	95	114.3	6.0	STPG42				(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
						変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注5)	(注5, 6)
									114.3	6.0	STPT42
									5.2	—	(注5)
									114.3	(最小)	ASTM
									—	6.0	A105
									(差し込み 部の内径)	(注3)	Gr II
									61.1	—	(S25C 相当)
									6.0)	—	

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

別添1 (49/73)

56

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注56)					原子炉補機冷却設備			(注3,5)	(注3,5)		
	A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン レジューサ(6×4)						変更なし	(注4) 1.2	(注4) 138	114.3	6.0	
	～								/	/	(注5) STPT42	
	A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン上流 レジューサ(4×2) 及び分岐点									114.3	6.0	

(次ページに続く)

57

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン レジューサ(6×4) ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口ライン上流 レジューサ(4×2) 及び分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3, 5)	(注5)	
							(注4)	(注4)	114.3	114.3	5.2 / 5.2 / 114.3 / (最小) 114.3 / (差し込み部の内径) 61.1 / 6.0
							1.2	138			

(令和2年9月30日)

別添1 (51/73)

58

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注58) A格納容器循環	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	138	変更なし	
	冷暖房ユニット 入口ライン上流 レジューサ(4×2) 及び分岐点 ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット										(注3, 5, 6) 61.1	(注5, 6) (最小) 6.0

(次ページに続く)

59

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注58)									(注3, 5)	(注5)	
原子炉補機冷却設備	A格納容器循環					原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4)	138	(最小)	
	冷暖房ユニット									6.0	
原子炉補機冷却設備	入口ライン上流					原子炉補機冷却設備	1.2	(注4)	61.1	(差し込み部の内径)	—
	レジューサ(4×2)									61.1	ASTM
原子炉補機冷却設備	及び分岐点					原子炉補機冷却設備	1.2	(注4)	138	(最小)	6.0
	～									—	Gr II
原子炉補機冷却設備	A格納容器循環					原子炉補機冷却設備	1.2	(注4)	138	(差し込み部の内径)	(注3) (S25C相当)
	冷暖房ユニット									61.1	—
										(6.0)	

(令和2年9月30日)

別添1 (53/73)

60

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン上流 レジャーサ(4×2) 及び合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし		
				(注3,5) 5.2	(注5) /				(注5) ASTM		
									(注3,5) 114.3	(注5) /	(注5) ASTM
									(差込み部の内径) 61.1	(注3) /	Gr II (S25C相当)
										(注3) 6.0	
										6.0	

次ページに続く)

(令和2年9月30日)

6/

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
(注57) 原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン上流 レジューサ(4×2) 及び合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	(注5)
							1.2	161	61.1	61.1	6.0
									(差し込み部の内径)	6.0	
									(差し込み部の内径)	6.0	
										6.0	

(令和2年9月30日)

別添1 (55/73)

62

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
(注59) A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン上流 レジューサ(4×2) ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン下流 レジューサ(6×4) 及び合流点	(注2) 0.98	95	(注3, 40) 89.1	(注3, 40) 5.5	(注40) STPT38	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし		
			(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42					(注3, 5, 6) 114.3	(注3, 5, 6) 6.0	(注5, 6) STPT42
										(注3, 5) 114.3	(注3, 5) 6.0	(注5) STPT38
										(注3, 5) 89.1	(注3, 5) 5.5	
										(注3, 5) 168.3	(注3, 5) 7.1	(注5) STPT42
										114.3	6.0	

(次ページに続く)

(令和2年9月30日)

別添1 (56/73)

63

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注59) A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン上流 レジューサ(4×2) ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン下流 レジューサ(6×4) 及び合流点 原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注3,5)	
							1.2	161	114.3	6.0	
									/	/	(注5)
									114.3	6.0	STPT42
								114.3	6.0		

(次ページに続く)

74

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
(注59) A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン上流 レジューサ(4×2) ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン下流 レジューサ(6×4) 及び合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3,5) 114.3	(注5) 5.2	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
									(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) 6.0	

(令和2年9月30日)

別添1 (58/73)

65

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注60) 原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン下流 レジューサ(6×4) ~ 格納容器貫通部 PEN#257 上流合流点	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし		
	0.98	95	168.3	7.1	STPG42				(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									168.3	7.1	STPT42
									(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)
									323.9	9.5	STPT42
					168.3	7.1					
					(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)				
					168.3	7.1	STPT42				
					168.3	7.1					
					168.3	7.1					

(次ページに続く)

66

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
(注60) 原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口ライン下流 レジューサ(6×4) ~ 格納容器貫通部 PEN#257 上流合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注3,5)		
							1.2	161	168.3	7.1	(注5)	
										168.3	7.1	STPT42
										114.3	6.0	
										168.3	7.1	(注5)
										168.3	7.1	STPT42

(令和2年9月30日)

別添1 (60/73)

67

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度				(MPa)	(°C)
原子炉補機冷却設備	(注61)	(注2)	(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備	1.2	161	変更なし				
	格納容器貫通部 PEN#257 上流合流点 ~ 格納容器貫通部 PEN#257	0.98	95	323.9	9.5				(注4)	(注4)	(注3,5)	(注3,5)	(注5)
	格納容器貫通部 PEN#257 ~ 弁(1MOV-5160B)										323.9	9.5	STPT42
	(注61)						(注4)	(注4)	(注3,5,6)	(注3,5,5)	(注5,6)		
							1.2	161	323.9	9.5	STPT42		

(令和2年9月30日)

別添1 (61/73)

69

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 弁(1MOV-5160B) ～ 1次系機器冷却水 戻り母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし			
								161	(注4)	(注3, 5, 6) 323.9	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) STPT42
								0.98	161	(注3, 5) 323.9	(注3, 5) 9.5	(注5) STPT42
										219.1	8.2	

(次ページに続く)

69

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 弁(1MOV-5160B) ~ 1次系機器冷却水 戻り母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り	(注2)		(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
	0.98	95	323.9	9.5			(注4)	(注4)	(注3)	(注3)	
							1.2	161	323.9	9.5	STPT370
									(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									323.9	9.5	STPT42
								(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)	
								323.9	9.5	STPT370	
							(注4)	(注4)	(注3)	(注3)	
							1.2	161	323.9	9.5	
									323.9	9.5	STPT370
									216.3	8.2	

(令和2年9月30日)

別添1 (63/73)

70

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧	温度					圧	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						原子炉補機冷却設備 窒素ボンベライン ホース接続口 ~ 1次系 冷却水タンク	(注4) 0.34	(注4) 95	(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)
					27.2				2.9	STPT38	
					(注3)				(注3, 49)		
					27.2				2.9	STPT370	
						(注3, 5)	(注3, 5, 49)	(注5)			
						89.1	5.5	STPT38			
						(注3, 5)	(注5, 49)	(注5)			
						(差し込み部の内径)	(最小)	S25C			
						27.7	4.3				

(次ページに続く)

71

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						原子炉補機冷却設備	窒素ポンペライン ホース接続口 ～ 1次系 冷却水タンク	(注4) 0.34	(注4) 95	(注3) 27.2 / - / 27.2	(注3) 2.9 / - / 2.9	STPT370

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						原子炉補機冷却設備			(注3)	(注3)	
						Aa、Ab 海水ストレーナ			267.4	9.3	
						海水供給接続口	(注1)	(注4)	/	/	
						～	1.2	40	-	-	STPT370
						Aa、Ab 海水ストレーナ			/	/	
									267.4	9.3	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 重大事故等時における使用時の値

(注5) 本設備は既存の設備である。

(注6) エルボを示す。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジャーサ (20×14)」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジャーサ (16×12)」と記載

(注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載

72

- 73
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ（20×14）」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（20×14）～ティ（20×20×16）」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ（20×20×16）～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ（16×12）～ティ（20×20×16）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ（20×20×16）～1次系冷却水クーラA、C入口ティ（20×20×16）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ（20×20×16）～1次系冷却水クーラA、C」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（20×16）～1次系冷却水クーラB」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ（RH-2）A、B」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ（RH-2）A、B～戻母管合流点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプ（RC-3）A、B、Cへの分岐点」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～レジューサ（8×6）」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～弁（1-FCV-1241）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁（1-5105A、B）」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-5105A、B）～1次系冷却水タンク」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系冷却水戻母管合流点」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入

口レジューサ (3×2)」と記載

(注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載

(注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (4×2)」と記載

(注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載

(注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジューサ (2×1 1/2)」と記載

(注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ」と記載

(注40) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (1×1/2)」と記載

(注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ」と記載

(注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ～レジューサ (1×1/2)」と記載

(注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～レジューサ (2×1 1/2)」と記載

(注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載

(注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2)」及び「レジューサ (3×2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン合流点」と記載

(注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載

(注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～充てん／高圧注入ポンプ」と記載

(注49) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ～充てん／高圧注入ポンプ出口分岐点」と記載

(注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口分岐点～充てんポンプ室空調装置冷却もどりライン合流点」と記載

(注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～計器用コンプレッサパッケージ」と記載

ナ

- 75
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
 - (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×6) および (12×8)」と記載
 - (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) ～レジューサ (6×4)」と記載
 - (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (4×2)」と記載
 - (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ (4×2) および合流点」と記載
 - (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
 - (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載
 - (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (12×6)」と記載
 - (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) および (12×8) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
 - (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
 - (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
 - (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～レジューサ (36×30)」と記載
 - (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (36×30) ～ティ (36×36×30)」と記載
 - (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～1次系冷却水クーラ」と記載
 - (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～海水戻り母管分岐点」と記載
 - (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (36×36×24) ～中間建屋出口 (埋設部を除く)」と記載
 - (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジューサ (10×8)」と記載
 - (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×8) ～ディーゼル発電機」と記載
 - (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8)」と記載
 - (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (16×12)」と記載
 - (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～海水戻り母管合流点」と記載
 - (注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
 - (注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
 - (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
 - (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

工事計画本文（関原発第 121 号（平成 30 年 5 月 24 日にて軽微変更届出））

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
96 原子炉補機冷却設備	計器用空気圧縮機 パッケージ		(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし					
	1次系機器冷却水 戻り母管合流点	0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9							STPG42
	計器用空気圧縮機 パッケージより		(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG410							
	1次系機器冷却水 母管分岐点	0.98 (注4)	95 (注4)	(注3) 323.9	(注3) 9.5							STPG42
格納容器循環 冷暖房ユニット 行き	1.2 (注4)	95 (注4)	(注3, 5) 323.9	(注3, 5) 9.5	(注6) STPT42	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	変更なし			
弁 (1MOV-5160A)						変更なし	変更なし					

(令和 2 年 9 月 30 日)

別添 1 (70/73)

77

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 弁(1MOV-5160B) ~ 1次系機器冷却水 戻り母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り	0.98	95 (注4)	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	(注4) 161	変更なし		
	(注4) 0.98	(注4) 161	(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5	(注6) STPT42		変更なし	変更なし			
			(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT42						
219.1	8.2	STPT42									

78

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
弁 (1MOV-5160B)	0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161			
	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT370						
原子炉補機冷却設備 1次系機器冷却水 戻り母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5	(注6) STPT42	原子炉補機冷却設備 変更なし					
			(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5	(注6) STPT370						
			(注3) 323.9	(注3) 9.5							
			／	／	STPT370						
			216.3	8.2							
											変更なし

79/E

- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×6) および (12×8)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) ～レジューサ (6×4)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (4×2)」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ (4×2) および合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (12×6)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) および (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×8) ～ディーゼル発電機」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (16×12)」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～海水戻母管合流点」と記載
- (注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注78) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。
- (注79) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除
- (注80) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名 : 原子炉冷却系統施設

系統名 : 原子炉補機冷却設備
主配管 (常設)

要領書番号 : 原規規収第 1610071 号 1-05-1

令和元年 10 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機

2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査

3 検査申請 使用前検査申請番号

関原発第299号(平成28年10月 7日)
関原発第434号(平成30年 3月20日)
関原発第 46号(平成30年 4月20日)
関原発第202号(平成30年 7月 4日)
関原発第259号(平成30年 8月20日)
関原発第415号(平成30年12月 5日)
関原発第504号(平成31年 2月 1日)
関原発第512号(平成31年 2月 6日)
関原発第582号(平成31年 3月18日)
関原発第 3号(平成31年 4月 4日)
関原発第68号(令和元年 5月16日)
関原発第115号(令和元年 6月24日)
関原発第204号(令和元年 8月23日)

4 検査期日 自 平成31年 4月10日
至 令和元年10月2日

5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場
広島県呉市宝町

- 6 検査範囲 旧規制基準における使用前検査実施済みの施設のうち、実施した耐圧検査及び漏えい検査圧力を超える圧力での検査が要求される工事計画に記載された下記の施設
- 高浜発電所第1号機
 - 発電用原子炉施設
 - 原子炉冷却系統施設
 - 原子炉補機冷却設備
 - 主配管（常設） 一式
- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 9 添付資料 使用前検査記録
- 1 検査前確認事項
 - 2 耐圧検査、漏えい検査記録
 - 3 検査用計器一覧表

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成31年 4月10日	高須 洋司  環境技官 河田 拓也 	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし
令和元年 7月31日	平井 隆  水戸 侑哉 	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし
令和元年 10月2日	河田 拓也 	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし

検査結果一覧表

系統名：原子炉補機冷却設備

主配管（常設）

検査項目	耐圧検査、漏えい検査	備 考
検査日	平成31年4月10日	
結果	良	
検査日	令和元年7月31日	
結果	良	
検査日	令和元年10月2日	
結果	良	

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成31年 4月10日	良	
		令和元年 7月31日	良	
		令和元年 10月2日	良	
系統構成が完了していること。	立会 / 記録確認	平成31年 4月10日	良	
	立会 / 記録確認	令和元年 7月31日	良	
	立会 / 記録確認	令和元年 10月2日	良	

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：
 ・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと
 ・著しい漏えいがないこと

検査対象	最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査 結果	検査方法
中間建屋入口 A、B 系～海水供給母管 A ヘッダ レギュレーサ (36×30) 及び海水供給母管 B ヘッ ダ分岐点	0.7 1.2 ^{※1}					水圧	年 月 日		目視/ 記録確認
海水供給母管 A ヘッダレギュレーサ (36×30) ～ 海水供給母管 B ヘッダ分岐点	0.7 1.2 ^{※1}	1.2	1.21	11	1.20	水圧	平成31年 4月10日	良	目視/ 記録確認
海水供給母管分岐点～1次系冷却水クーラ A、 B、C	0.7 1.2 ^{※1}					水圧	年 月 日		目視/ 記録確認

備考

※1：重大事故等時における使用時の圧力

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※3：詳細は、別紙参照

7

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：~~三菱日立パワーシステムズ株式会社~~ 呉工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：
 ・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと
 ・著しい漏えいがないこと

検査対象	最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい・ 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査 結果	検査方法
中間建屋入口 A、B 系～海水供給母管 A ヘッド レギュレーサ (36×30) 及び海水供給母管 B ヘッ ダ分岐点	0.7 1.2*1	1.2	1.2 /	12	1.2 /	水圧	令和元年 7月31日	良	目視/ 記録確認
			1.25	13	1.25				
海水供給母管 A ヘッドレギュレーサ (36×30) ～ 海水供給母管 B ヘッド分岐点	0.7 1.2*1	1.2	1.2 /	12	1.2 /	水圧	令和元年 7月31日	良*3	目視/ 記録確認
海水供給母管分岐点～1次系冷却水クーラ A、 B、C	0.7 1.2*1					水圧	年 月 日		目視/ 記録確認

備考

※1：重大事故等時における使用時の圧力

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※3：詳細は、別紙参照

高浜発電所第1号機

耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：三菱日立パワーシステムズ株式会社二貝工場、関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）：一式

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと
・著しい漏えいがないこと

検査対象	最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持 時間 (分)	漏えい 検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査 結果	検査方法
中間建屋入口 A、B 系～海水供給母管 A ヘッド レギュレーサ (36×30) 及び海水供給母管 B ヘッド 分岐点	0.7 1.2 ^{*1}					水圧	年 月 日		目視/ 記録確認
海水供給母管 A ヘッドレギュレーサ (36×30) ～ 海水供給母管 B ヘッド分岐点	0.7 1.2 ^{*1}					水圧	年 月 日		目視/ 記録確認
海水供給母管分岐点～1次系冷却水クーラ A、 B、C	0.7 1.2 ^{*1}					水圧	令和元年 10月2日	良	目視/ 記録確認

備考

※1：重大事故等時における使用時の圧力

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503

※3：詳細は、別紙参照

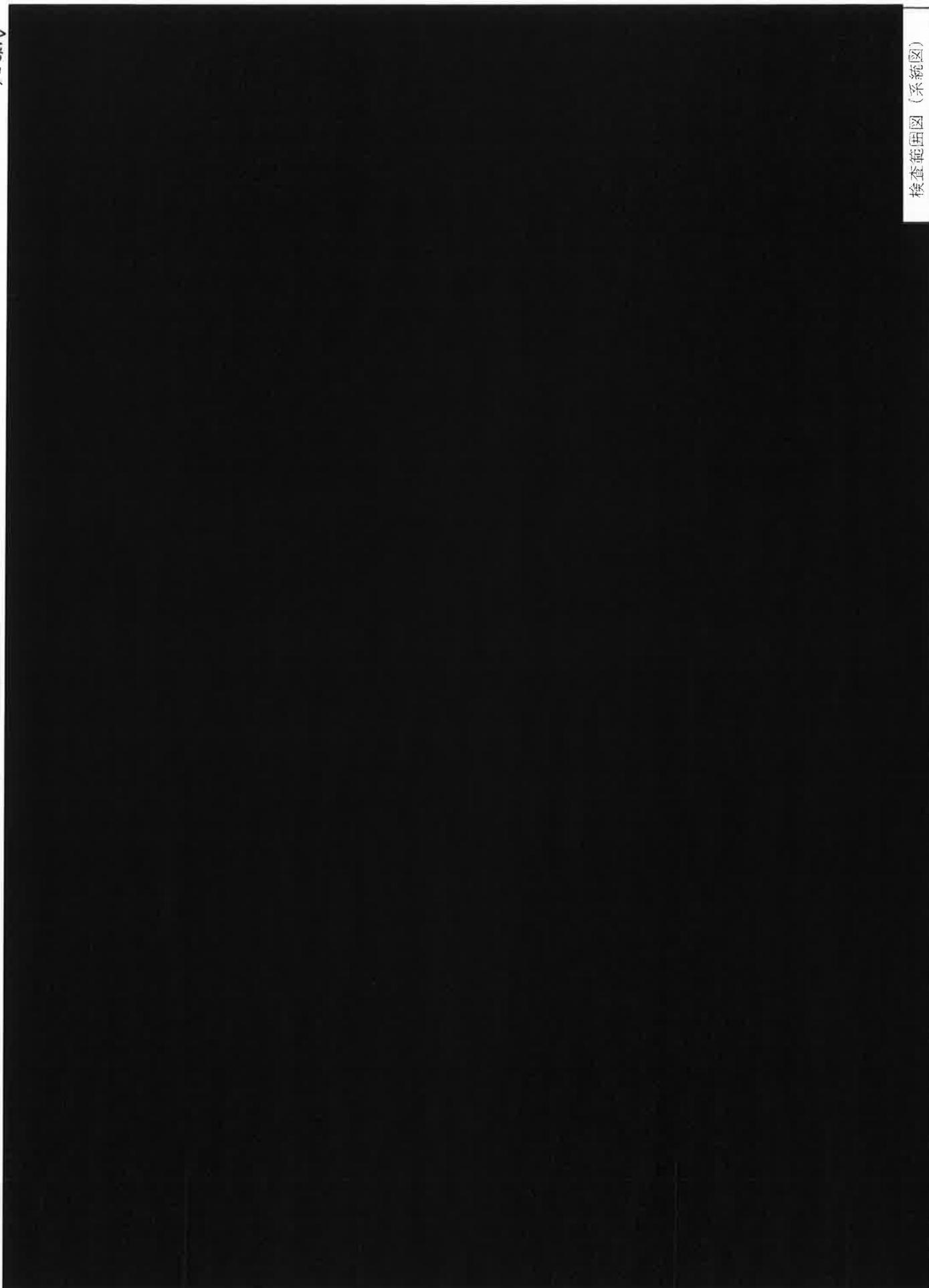
6

高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録

検査用計器一覧表

検査年月日：平成 31 年 4 月 10 日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019.4.1	
					2019.10.1	
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019.2.5	
					2019.8.5	





12



関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-05-2

令和2年9月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-05-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自令和2年9月16日
至令和2年9月29日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第299号(平成28年10月7日)
	関原発第434号(平成30年3月20日)
	関原発第46号(平成30年4月20日)
	関原発第202号(平成30年7月4日)
	関原発第259号(平成30年8月20日)
	関原発第415号(平成30年12月5日)
	関原発第504号(平成31年2月1日)
	関原発第512号(平成31年2月6日)
	関原発第582号(平成31年3月18日)
	関原発第3号(平成31年4月4日)
	関原発第68号(2019年5月16日)
	関原発第115号(2019年6月24日)
	関原発第204号(2019年8月23日)
	関原発第478号(2020年1月23日)
	関原発第510号(2020年1月31日)
	関原発第542号(2020年2月26日)
	関原発第609号(2020年3月24日)
	関原発第20号(2020年4月7日)
	関原発第236号(2020年8月21日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月16日	良	平井 隆 増本 豊	ボラ- -7-てん 主任技術者	よし

3

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和 9 年 9 月 16 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ・—	

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和 2 年 9 月 16 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和2年 9月 16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 ろ過装置 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0503（その2） ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(6) ろ過装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数

(工事の計画の認可 平成28年6月10日認可)

			変更前 ⁽¹⁾	変更後
名称			海水ストレーナ	
種類	—		たて置円筒形	変更なし
容量	m ³ /h/個			
最高使用圧力	MPa		0.7	変更なし
最高使用温度	℃		40	
主要寸法	胴内径	mm		
	胴板厚さ	mm		
	鏡板厚さ	mm		
	鏡板の形状に係る寸法	mm		
	ふたフランジ厚さ	mm		
	入口管台外径	mm		
	入口管台厚さ	mm		
	出口管台外径	mm		
	出口管台厚さ	mm		
	ドレン管台外径	mm		
	ドレン管台厚さ	mm		
	胴フランジ厚さ	mm		
材料	高さ	mm		
	胴板	—		
	鏡板	—		
	ふたフランジ	—		
胴フランジ	—			
個数	—		4	

: 検査対象範囲

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
原子炉補機冷却設備 Aa、Ab 海水ストレナー ～ 中間建屋入口 (A系)	(712)	40	(713)	(713)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	1.2	変更なし	変更なし				
			914.4	12					(713)	(713)	SM400B		
	(712)	0.7	40	(713)	(713)				(713)	(713)	914.4	15	SB480
	914.4	12	SS400	(713)	(713)				(713)	(713)	914.4	25	SB480
-						(714)	(714)	(713, 5, 6)	(713, 5, 6)	(715, 6)	SS41		

: 検査対象範囲

6

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
原子炉補機冷却設備 中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッド レジューサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッド 分岐点	(712) 0.7	40	(713) 914.4	(713) 12.7	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (714) 1.2	40 (714)	(713, 5, 6) 914.4	(713, 5, 6) 12.7	(715, 6) SS41
							(713, 5) 914.4		(713, 5) 12.7	(715) SS41	
							(714) 762.0		(714) 12.7	(715) SS41	
							(713, 5) 914.4		(713, 5) 12.7	(715) SS41	
							(713, 5) 914.4		(713, 5) 12.7	(715) SS41	

: 検査対象範囲

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。
- (注6) エルボを示す。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載
- (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラB」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプ (RC-3) A、B、Cへの分岐点」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～レジューサ (8×6)」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻管合流点～弁 (1-FCV-1241)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (1-5105A、B)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～燃料ピットクーラ」と記載

- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジャーサ (3×2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～1次系機器冷却水母管合流点」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ」と記載
- (注40) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」及び「レジャーサ (3×2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置冷却ライン合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～充てん/高圧注入ポンプ」と記載
- (注49) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ～充てん/高圧注入ポンプ出口分岐点」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口分岐点～充てんポンプ室空調装置冷却もどりライン合流点」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～計器用コンプレッサパッケージ」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージ～1次系機器冷却水戻り母管合流点」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (12×6) および (12×8)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×6) ～レジャーサ (6×4)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジャーサ (4×2) および合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載

- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～レジャーサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～レジャーサ (12×6)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×6) および (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～レジャーサ (36×30)」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (36×30) ～ティ (36×36×30)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～1次系冷却水クーラ」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～海水戻母管分岐点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (36×36×24) ～中間建屋出口 (埋設部を除く)」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～レジャーサ (10×8)」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (10×8) ～ディーゼル発電機」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～レジャーサ (16×12)」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (16×12) ～海水戻母管合流点」と記載
- (注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(工事計画軽微変更届出 平成30年5月24日届出)

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	0.7	40	(注13)	(注13)	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし					
	1.2		(注13, 78)	(注13, 78)	(注178)							SS400
	1.2	40	(注13, 6, 78)	(注13, 6, 78)	(注16, 78)							SS400
			(注13, 78)	(注13, 78)	(注178)							SS400
			—	—	—							—
			(注13, 78)	(注13, 78)	(注178)							SS400
			—	—	—							—
中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管Aヘッダ レジューサ (36×30) 及び 海水供給母管Bヘッダ 分岐点												

13

: 検査対象範囲

別添1-7
(令和2年9月16日)

(工事計画軽微変更届出 平成30年5月24日)

- 14
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×6) および (12×8)」と記載
 - (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) ～レジューサ (6×4)」と記載
 - (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (4×2)」と記載
 - (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器循環空調装置～レジューサ (4×2) および合流点」と記載
 - (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
 - (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載
 - (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～レジューサ (12×6)」と記載
 - (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×6) および (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
 - (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプ～中間建屋入口」と記載
 - (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
 - (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×8) ～ディーゼル発電機」と記載
 - (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8)」と記載
 - (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (16×12)」と記載
 - (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (16×12) ～海水戻母管合流点」と記載
 - (注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
 - (注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
 - (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
 - (注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
 - (注78) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。
 - (注79) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除
 - (注80) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

別添1-8
(令和2年9月6日)

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月29日	良	栗谷 徹 	ボラー-マゼン 主任技術者 	なし

15

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和 2 年 9 月 29 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和2年 9月 29日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和2年9月29日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 一次冷却材の循環設備 主蒸気・主給水設備 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 化学体積制御設備 計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管 別添1、2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0213 →日視で確認した範囲→			

設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606104号（平成28年6月10日認可））

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

4 一次冷却材の循環設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

(次ページより記載)

20

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
<small>(注30, 49)</small> 一次冷却材の循環設備 弁(1V-8378A) ~ 3B 化学体積 制御系 ライン用管台	17.16	343	<small>(注3)</small>	<small>(注3, 25)</small>	SUS316TP	<small>(注6)</small> 一次冷却材の循環設備 弁(1V-8378A) ~ 3B 化学体積 制御系 ライン用管台	18.5	360	変更なし	変更なし	変更なし
			<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>							
			/	/							
			/	/	SUS316TP						

1

別添1 (2/24)
 (令和2年9月29日)

21

変更前						変更後							
名称		最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称		最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
		圧力 (MPa)	温度 (°C)						圧力 (MPa)	温度 (°C)			
一次冷却材の循環設備	余熱除去ポンプ入口ライン 12B 余熱除去 ライン用管台 ～ 弁 (1MOV-8702 A、B)	(注2) 17.16	343	(注3) 323.9	(注3, 23) 33.3	SUS32TP	一次冷却材の循環設備	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
				(注3) 323.9	(注3, 23) 33.3	(注32) SUS316TP			(注7) 18.5	(注7) 360			

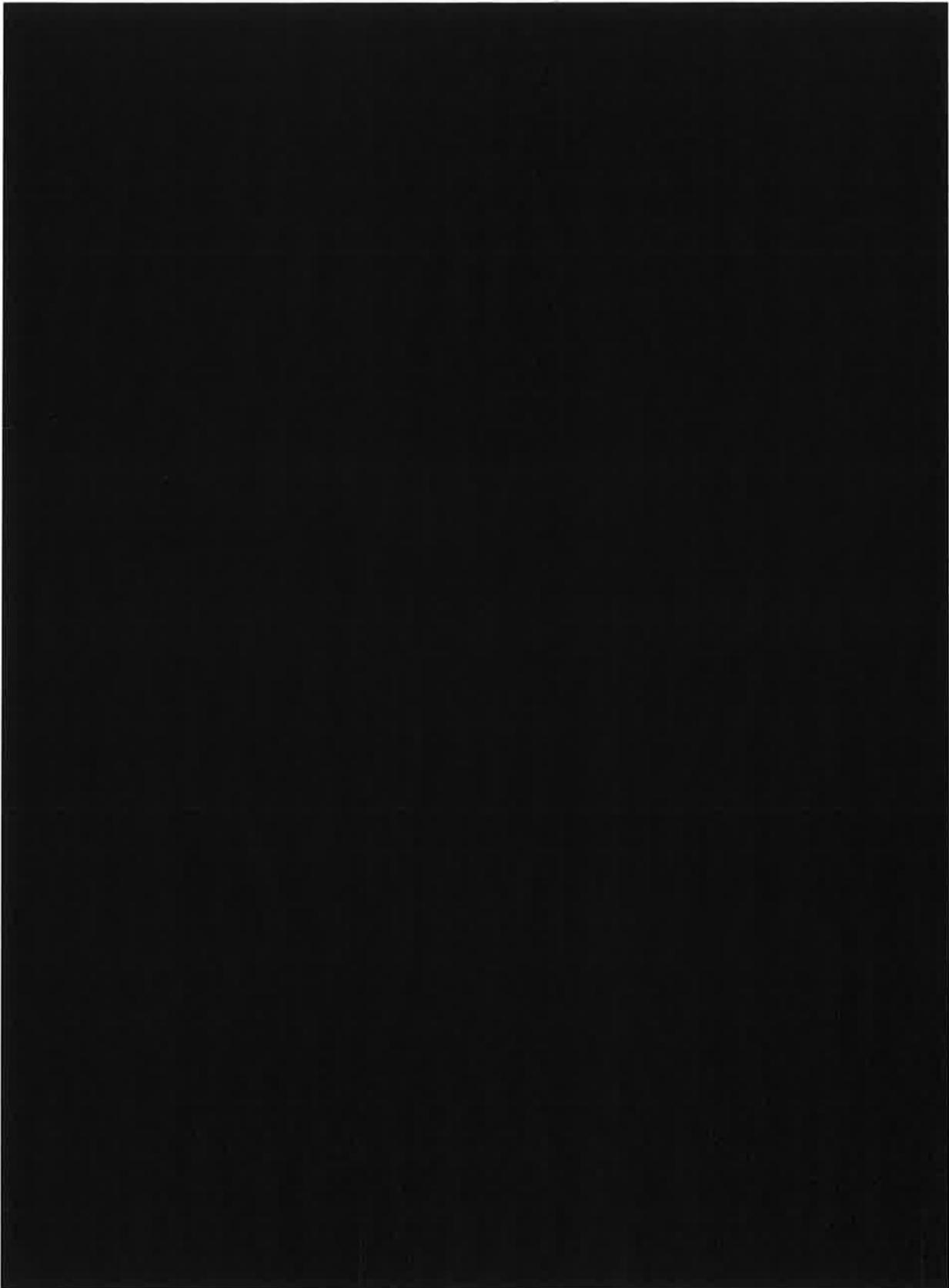
2

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
次冷却材の循環設備	(注41) 弁 (1V-8940A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	17.16	343	(注3) 168.3	(注3、25) 18.3	SUS316TP	変更なし				
	(注42) 弁 (1V-8945A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	17.16	343	(注3) 168.3	(注3、25) 18.3	SUS316TP	(注6) 弁 (1V-8945A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	変更なし (注7) 18.5	変更なし (注7) 360	変更なし	

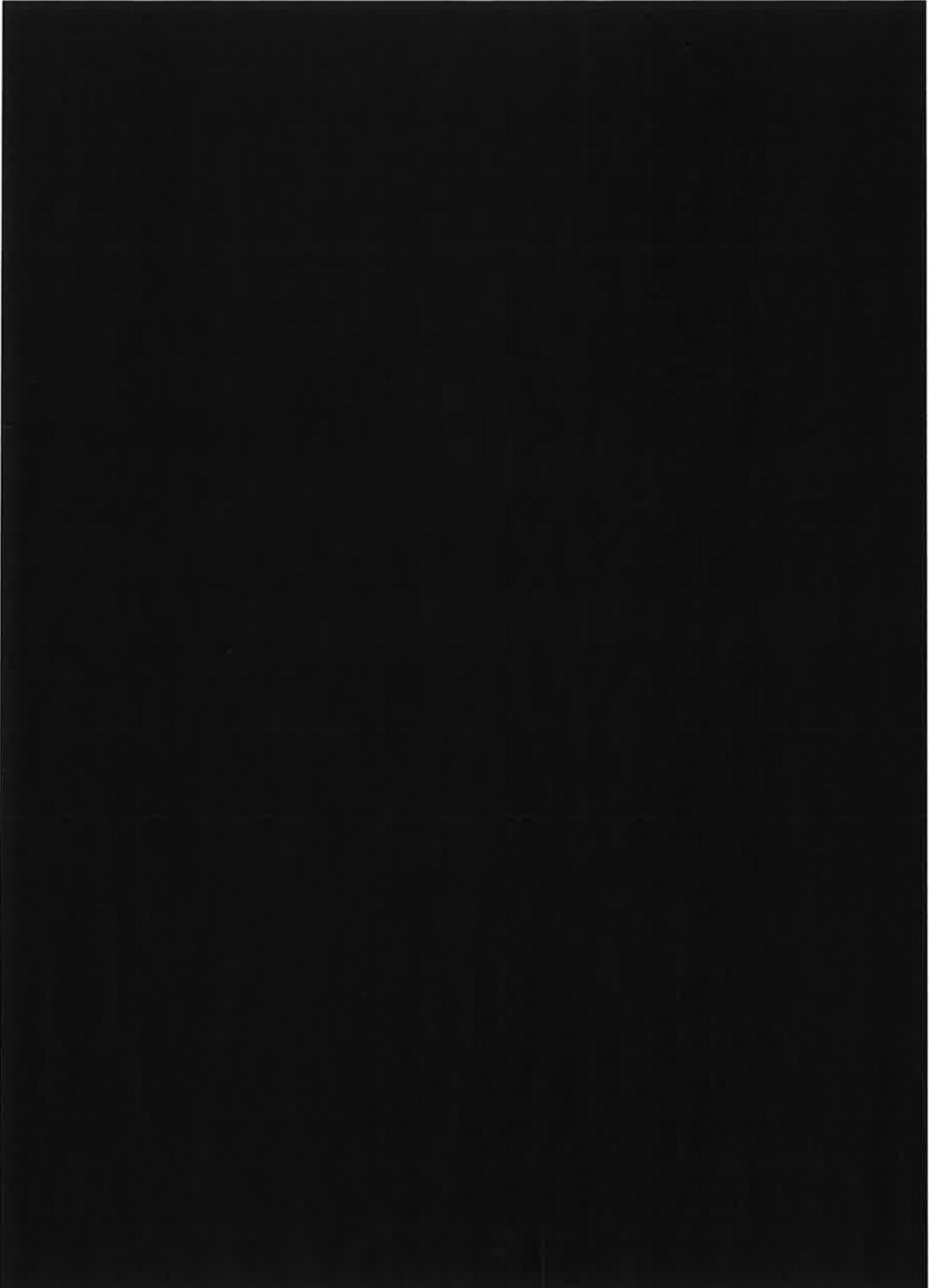
別添1 (4/24)
(令和2年9月29日)

別添1 (5/24)

(令和2年9月29日)



別添1 (6/24)
(令和2年 9月29日)



別添1 (7/24)

(令和2年9月29日)



5 主蒸気・主給水設備に係る次の事項

(3) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

(次ページより記載)

(3) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前						変更後							
名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
		圧 力	温 度						圧 力	温 度			
		(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
主 蒸 気 ・ 主 給 水 設 備	(注1) 弁(1FW-562 A、B、C) ～ 補助給水配管 合流点	(注2) 7.48	230	(注3) 114.3	(注3,4) 8.6	STPT42	主 蒸 気 ・ 主 給 水 設 備	変更なし	変更なし (注5) 8.0	変更なし (注5) 351	変更なし		
	(注3,19) 114.3			(注3,10,19) 8.6	(注19) STPT410								
	(注3,6) 114.3			(注3,6) 11.1	(注6) STPT42								

3

27

28

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力 (MPa)	温度 (℃)					圧力 (MPa)	温度 (℃)			
<small>(注6)</small> 主蒸気配管 分岐点 弁 (IMS-520 A、B、C)行き ~ 弁 (IMS-520 A、B、C)	7.48	291	<small>(注3)</small> 220	<small>(注3)</small> 36.8	SF50	主蒸気・主給水設備 変更なし	変更なし <small>(注5)</small> 8.0	変更なし <small>(注5)</small> 351			変更なし

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-FW-562A、B、C) ~主給水管」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルゴについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 重大事故等時における使用時の値

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「外部しゃへい壁~主蒸気管集合管」と記載

（令和2年9月29日）

別添1 (10/24)

(注8) 本設備は記載の適正化のみ行うものであり、手続き対象外である。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-FW-520A、B、C)～外部しゃへい壁」と記載

(注10) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸気発生器A、B、C～レジャーサ(32×30)」と記載

(注12) エルボを示す。

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ(32×30)～外部しゃへい壁」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「外部しゃへい壁～蒸気発生器A、B、C」と記載

(注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気管A、C分岐点～タービン動補助給水ポンプ」と記載

(注16) SB42同等材(SB410)への取替えを行う。

(注17) STPT49同等材(STPT480)への取替えを行う。

(注18) STPT38同等材(STPT370)への取替えを行う。

(注19) STPT42同等材(STPT410)への取替えを行う。

29

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(次ページより記載)

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注41)		(注3)	(注3, 4)		(注10)					
			60.3	8.7	SUS27TP						
	弁(1V-8944 A、B、C) ～ 余熱除去クーラ 出口配管 弁(1V-8944 A、B、C)側 合流点	17.16	343	(注3)	(注3, 4)						
			60.3	8.7	SUS316TP						
			(注3)	(注3)			変更なし	変更なし			
			70.1	13.6	SUSF316		(注14)	(注14)			変更なし
			(注3)	(注37, 42)							
			(差し込み 部の内径)	(最小)	ASTM A182 F304 (SUSF304 相当)						
			61.1	9.4							
				(注3, 43)							
				(9.4)							

(B系統を除く)

4

別添1 (13/24)
(令和2年9月29日)

32

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注41)		(注3)	(注44)		(注10)					
	弁(1V-8944 A、B、C) ～ 余熱除去クーラ 出口配管 弁(1V-8944 A、B、C)側 合流点	17.16	343	61.1	9.4 (最小)	ASTM A182 F304 (SUSF304 相当)	弁(1V-8944 A、B、C) ～ 余熱除去クーラ 出口配管 弁(1V-8944 A、B、C)側 合流点	18.5 (注14)	360 (注14)	61.1	9.4 (最小)

別添1 (14/24)
(令和2年9月29日)

33

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注64)		(注3)	(注3, 37)	SUS32TP	非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	変更なし	変更なし			
	弁(1V-8956 A、B、C)	17.16	343	323.9	33.3		変更なし	(注14)	(注14)	変更なし	
弁(1V-8948 A、B、C)			(注3)	(注3, 37)	SUS316TP		18.5	360			

5

(B系統を除く)

別添1 (15/24)
(令和2年9月29日)

34

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注68)	(注14)	(注14)	(注3)	(注3)	
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	0	40	165.2	7.1	SUS304TP
									(注3)	(注3)	
									89.1	5.5	SUS304TP
									(注3)	(注3, 37)	
							(注14)	(注14)	165.2	7.1	SUS304TP
							1.3	40	(注3)	(注3)	
									165.2	7.1	
									/	/	
									-	-	SUS304TP
									/	/	
									89.1	5.5	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (1-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

別添1 (16/24)
令和2年9月29日

- (注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注6) 重大事故等時に使用
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8926）」と記載
- (注9) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8926）～弁（1-LCV-115D、E）」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁（1-8811A、B）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注14) 重大事故等時における使用時の値
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8811A、B）～弁（1-8812A、B）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁（1-8958）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（1-8958）～弁（1-8809A、B）」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁（1-5400）」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジャーサ（4×3）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ（4×3）～レジャーサ（4×3）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ（4×3）～弁（1-8803A、B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8803A、B）～ほう酸注入タンク入口レジャーサ（6×3）」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジャーサ（6×3）～弁（1-8801A、B）」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（1-8801A、B）～格納容器」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口連絡管分岐点～レジャーサ（4×3）」と記載

- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ～レジャーサ (4×3)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ～弁 (1-8815)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8815) ～格納容器」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク入口ラインレジャーサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8816)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8816) ～格納容器」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの高圧ラインのレジャーサ (4×3) 出口分岐点～弁 (1-8814)」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8814) ～格納容器」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8818A、B) ～格納容器」と記載
- (注35) 余熱除去設備と兼用
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグへの注入母管分岐点～弁 (1-8819)」と記載
- (注37) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8819) ～格納容器」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #229～分岐点」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8944A、B、C)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8944A、B、C) ～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注43) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / (最小) 9.5 / -」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部 #262～分岐点」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (1-8942A、B、C)」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点」と記載
- (注48) エルボを示す。

令和2年9月29日

- 37
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#261～分岐点」と記載
 - (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8939A、B、C)」と記載
 - (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#276～分岐点」と記載
 - (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(1-8937A、B、C)」と記載
 - (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁～合流点およびレジューサ(6×2)」と記載
 - (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8937C)及び弁(1-8939C)～弁(1-8940C)」と記載
 - (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小)9.5/(最小)9.5/(最小)9.5」と記載
 - (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#263、224～分岐点」と記載
 - (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8973A、C)および弁(1-8972A、B)を経て弁(1-8973B)」と記載
 - (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8973A、B、C)～弁(1-8945A、B、C)」と記載
 - (注59) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
 - (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器貫通部#258～分岐点」と記載
 - (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～弁(1-8935A、B)」と記載
 - (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8935A、B)～弁(1-8940A、B)」と記載
 - (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁(1-8808A、B、C)」と記載
 - (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-8808A、B、C)～弁(1-8948A、B、C)」と記載
 - (注65) 本設備は既存の設備である。
 - (注66) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
 - (注67) SUS32TP同等材(SUS316TP)への取替えを行う。
 - (注68) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
 - (注69) SUS27TP同等材(SUS304TP)への取替えを行う。

8 化学体積制御設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

(次ページより記載)

39

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
化学体積制御設備 (1V-8378B) ～ 弁 (1V-8378A)	17.16	343	(注2)	(注2, 13)	SUS27TP	化学体積制御設備 (1V-8378B) ～ 弁 (1V-8378A)	18.5	360			変更なし
			88.9	11.1							
			(注2)	(注2)	SUS316TP						
			89.1	11.1							
			(注2)	(注2)	SUS316TP						
			89.1	11.1							
			89.1	11.1	SUS316TP						
			—	—							

6

別添1 (21/24)
(令和2年9月29日)

40

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
化学体積制御設備	(注14)		(注2)	(最小)		化学体積制御設備					
	弁 (1A0V-8145)	17.16	343	9.4	ASTM		変更なし				
～			(差し込み部の内径)	—							
弁 (1V-8377)			61.1	(最小)	A182						
			—	9.4	F304						
			—	(注2)	(SUSF304						
			(差し込み部の内径)	9.4	相当)						
			61.1	—							
			—	9.4)							

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8149A、B、C) ～抽出水非再生クーラ」と記載

(注2) 公称値

(注3) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1」と記載

(注5) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

別添1 (22/24)
(令和2年9月29日)

- 17
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUSF304相当 (ASTM A182F304)」と記載
 - (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1 / (最小) 6.1 / (最小) 6.1」と記載
 - (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1 / (最小) 6.1 / -」と記載
 - (注9) 本設備は記載の適正化のみ行うものであり、手続き対象外である。
 - (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
 - (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-LCV-115E) ~レジャーサ (8×4)」、「レジャーサ (8×4) ~充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
 - (注12) SI単位に換算したものである。
 - (注13) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
 - (注14) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 - (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
 - (注16) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
 - (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8706A、B) ~充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
 - (注18) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
 - (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-LCV-115B、D) ~充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
 - (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ入口ライン集合母管~充てんポンプA、B」と記載
 - (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (8×6) ~充てんポンプC」と記載
 - (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプA、B、C~封水ラインと充てんラインの分岐点」と記載
 - (注23) 重大事故等時に使用
 - (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ~レジャーサ (4×3)」と記載
 - (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ~弁 (1-8107)」と記載
 - (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×3) ~弁 (1-1805)」と記載

- 42
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-1805) ～レジューサ (3×2)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～封水注入フィルタ～レジューサ (3×2)」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～レジューサ (3×2)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bへの分岐点及びレジューサ (3×2) ～レジューサ (2×1)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8107) ～抽出水再生クーラ人口」と記載
- (注32) 重大事故等時における使用時の値
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1) ～弁 (1-8369A、B、C)」と記載
- (注34) エルボを示す。
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8369A、B、C) ～レジューサ (2×1)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1) ～レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～封水フィルタ、封水クーラ～弁 (1-8484、1-8482)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「抽出ライン弁 (1-LCV460) ～抽出水再生クーラ」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「抽出水再生クーラ～弁 (1-8146)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-8146) ～弁 (1-8378A)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんライン分岐点～弁 (1-8145)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5 / — / (最小) 9.5」と記載
- (注43) SUS27TP同等材 (SUS304TP) への取替えを行う。
- (注44) SUS32TP同等材 (SUS316TP) への取替えを行う。
- (注45) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成23年11月21日付け関原発第380号工事計画認可申請書、平成23年12月26日付け平成23・11・21原第20号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。

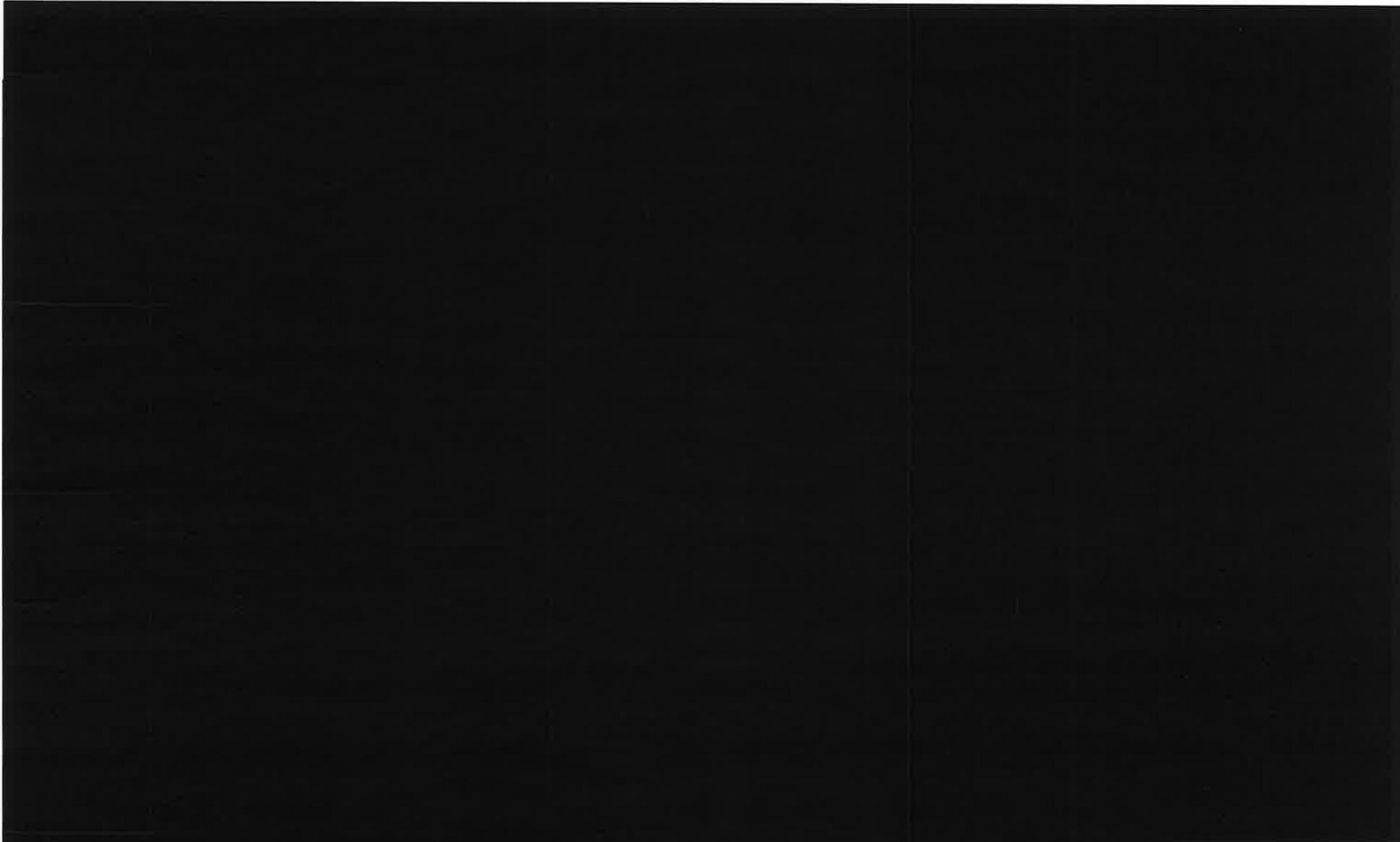
43

工事計画認可申請	第3-1-10図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備)(S/10)	
関西電力株式会社	

別添2 (1/10)

(令和2年9月29日)

44



工事計画認可申請	第3-1-11図
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備)(9/10)	
関西電力株式会社	

別添2 (2/10)

(令和2年9月29日)

(令和2年9月29日)

別添2 (3/10)

工事計画認可申請	第3-1-12図
高圧送電所	第1号機
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備)(10/10)	
関西電力株式会社	

(令和2年9月29日)

別添2 (4/10)



工事計画認可申請	第3-1-17図
高圧発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の配置を明示した図面 (主蒸気・主給水設備)(4/7)	
関西電力株式会社	

(令和2年9月29日)

別添2 (5/10)

工業計画認可申請	第9-1-18回
高 株 発 電 所 第 1 号 原 子 炉 冷 却 系 統 施 設 に 係 る 機 器 の 部 品 を 明 示 し た 図 面 (主 蒸 気 主 給 水 設 備) (5/7)	
関西電力株式会社	

(令和2年9月29日)

別添2 (6/10)

工事計画認可申請	第3-1-19回
高圧発電機	第1号機
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (主蒸気・主給水設備)(6/7)	
関西電力株式会社	

67

工事計画認可申請	第3-1-46回
高浜発電所第1号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 ・(非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(10/42)	
関西電力株式会社	

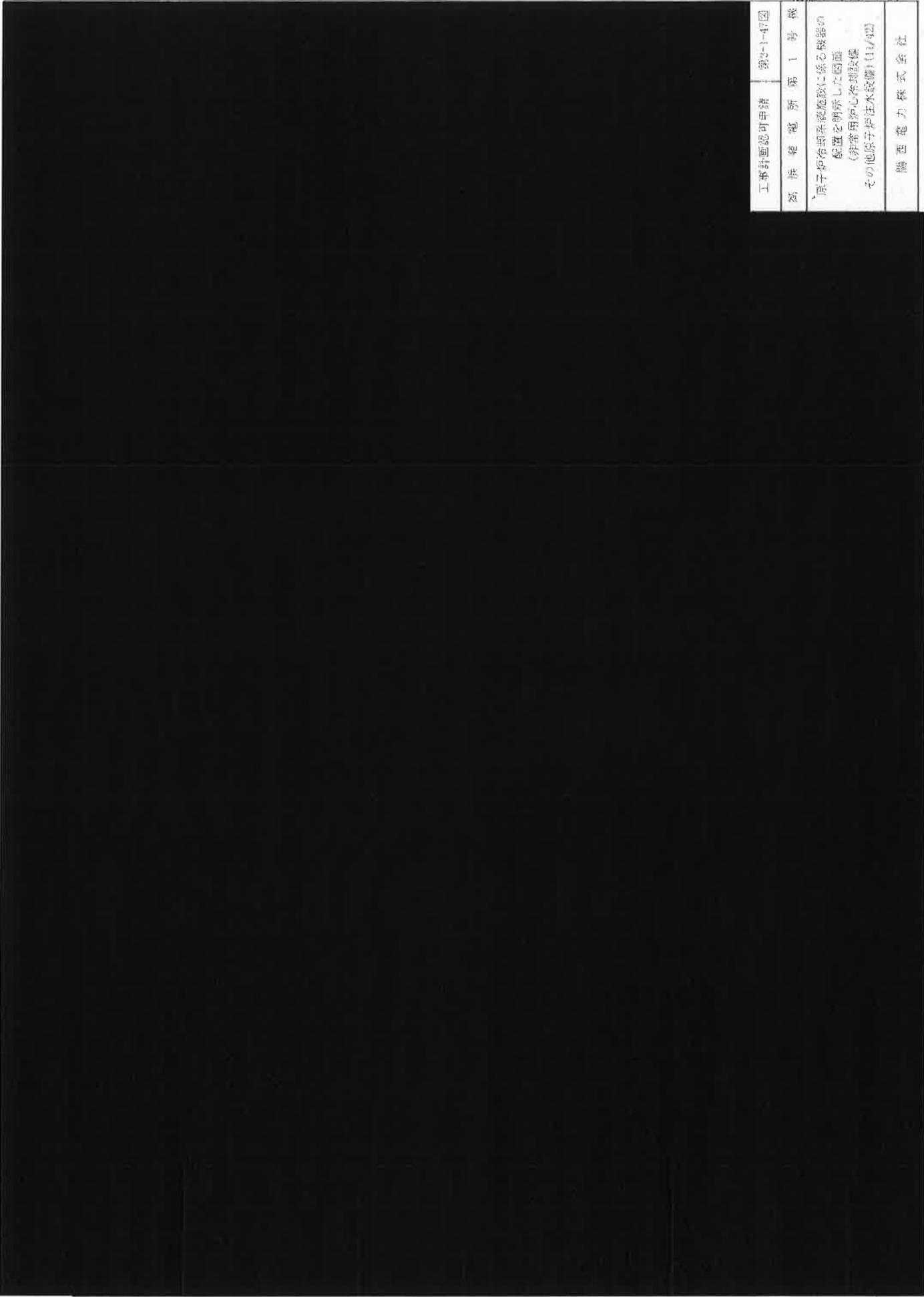
別添2 (7/10)

(令和2年9月29日)

(令和2年9月29日)

別添2 (8/10)

工事計画認可申請書	第2-1-47図
送電事業者	第一号機
原子炉貯留施設施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心除熱設備 その他原子炉注水設備)(11/42)	
	関西電力株式会社



(令和2年9月29日)

別添2 (9/10)

工事計画認可申請	第3-1-53図
高浜発電所新1号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉圧水設備)(17/42)	
関西電力株式会社	

(令和2年9月29日)

別添2 (10/10)

工事計画認可申請	第3-1-88回
商 業 電 気 第 1 号 操	
原子炉冷却部系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (化学体積制御設備)(8/9)	
関西電力株式会社	

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-06

令和2年9月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-06

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和 2 年 9 月 29 日
至 令和 2 年 9 月 29 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-06

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月29日	良	渋谷 徹 	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-06

検査年月日：令和 2 年 9 月 29 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06

検査年月日：令和2年 9月 29日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・⊖	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06

検査年月日：令和2年 9月 29日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
計測制御系統施設 制御用空気設備 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0216 一日視で確認した範囲			

設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606104号（平成28年6月10日認可））

計測制御系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係るものを除く。）にあつては、次の事項

9 制御用空気設備に係る次の事項

(5) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注1) 弁 (1MOV-6202、 6203) ～ 格納容器貫通部 PEN# 328、332	(注2) 0.83	50	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	制御用空気設備 変更なし	変更なし (注5) 0.98	変更なし (注5) 138	変更なし		
							(注5) 0.98	(注5) 138	(注3,7) (差し込み 部の内径) 61.1	(注7) 6.0	(注7) ASTM A105 Gr II (注3) (S25C 相当) (6.0)

97

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注1) 格納容器貫通部 PEN# 328、332 ～ 弁 (1V-6204A、B)	(注2) 0.83	50	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	制御用空気設備 変更なし	変更なし (注5) 0.98	変更なし (注5) 138	変更なし		
							(注5) 0.98	(注5) 138	(注3,7) 61.1	(注7) (最小) 6.0	(注7) (最小) 6.0

6

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
制御用空気設備 (注10) 弁(1V-6204A、B) ~ 弁(1V-6250F、H)	(注2) 0.83	50	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	制御用空気設備 変更なし	変更なし (注5) 0.98	変更なし (注5) 138	変更なし		
									(注3) 34.0	(注3) 3.4	STPT370
									(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPT370

10

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注10) 弁 (1V-6204A、B) ~ 弁 (1V-6250F、H) 制御用空気設備						変更なし 制御用空気設備			(注3,6) 34.0	(注3,6) 3.4	(注6) STPT370
							(注5) 0.98	(注6) 138	(注3,7) 61.1	(注7) (最小) 6.0	(注7) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
								(差し込み部の内径) 61.1	(最小) 6.0	(注3) (6.0)	
								(差し込み部の内径) -	-	6.0	

(令和2年9月29日)

別添1 (4/9)

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(mm)
	(MPa)	(℃)					(MPa)	(℃)				
制御用空気設備	(注10) 弁(1V-6204A、B) ～ 弁(1V-6250F、H)					制御用空気設備	変更なし	(注5) 0.98	(注5) 138	(注3) 60.5	(注3) 3.9	STPT370
										／ — ／	— — ／	
						ホース接続口 (AJB NO.8 入口窒素供給配管) ～ 弁(1V-6291)	(注5) 0.83	(注5) 50	(注3) 34.0	(注3) 3.4	STPT370	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用空気乾燥器A、B出口の仕切弁～格納容器内逆止弁」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注5) 重大事故等時における使用時の値

(注6) エルボを示す。

(注7) 本設備は既存の設備である。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用空気乾燥器A、B出口ライン分岐点～空気だめ」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめラインへの分岐点～主蒸気大気放出弁および補助給水用弁」と記載

(注10) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注11) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

工事計画本文（関原発第121号（平成30年5月24日にて軽微変更届出））

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力 (MPa)	温度 (℃)					圧力 (MPa)	温度 (℃)			
制御用空気設備 弁(1MOV-6202、 6203) ～ 格納容器貫通部 PEN# 328、332	0.83 (注5)	50 (注5)	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	制御用空気設備	変更なし				
	0.98 (注12)	138 (注12)	(注3、13) (差し込み 部の内径)	(注13) (最小)	(注13) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)						
	0.83 (注5)	50 (注5)	61.1	6.0							
	0.98	138		(注3) (6.0)							

13

カ

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
制御用空気設備 格納容器貫通部 PEN# 328、332 ～ 弁(1V-6204A、B)	0.83	50	(注3)	(注3)	STPG42	変更なし					
	(注5)	(注5)	60.3	3.9							
	0.98	138									
			(注3、13)	(注13)							
			(差し込み部の内径)	(最小)							
				6.0							
制御用空気設備	(注12)	(注12)	61.1	6.0	(注13)	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)					
	0.83	50									
	(注5)	(注5)	(差し込み部の内径)	(最小)							
	0.98	138		(注3)							
			61.1	(6.0)							
				6.0							
			-								

- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用空気乾燥器A、B出口ライン分岐点～空気だめ」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめラインへの分岐点～主蒸気大気放出弁および補助給水用弁」と記載
- (注10) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注11) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注12) 平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注13) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606104号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名 : 放射線管理施設

系統名 : 生体遮蔽装置

緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用)

要領書番号 : 原規規収第 1610071 号 1-07

令和元年 6月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号
関原発第299号(平成28年10月7日)
関原発第434号(平成30年3月20日)
関原発第46号(平成30年4月20日)
(以下、別紙1参照)
- 4 検査期日 自 平成30年3月27日
至 令和元年6月6日
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
一般財団法人日本建築総合試験所 試験研究センター
大阪府吹田市藤白台
- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
放射線管理施設
生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽(1・2・3・4号機共用) 一式
- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 9 添付資料 使用前検査記録
1 検査前確認事項
2 材料検査記録
3 寸法検査記録
4 外観検査記録
5 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
6 検査用計器一覧表

3 検査申請

使用前検査申請番号

関原発第202号(平成30年 7月 4日)

関原発第259号(平成30年 8月20日)

関原発第415号(平成30年12月 5日)

関原発第504号(平成31年 2月 1日)

関原発第512号(平成31年 2月 6日)

関原発第582号(平成31年 3月18日)

関原発第 3号(平成31年 4月 4日)

関原発第 68号(令和 元年 5月16日)

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成30年 3月27日	宮崎 毅 柳 健	発電用原子炉 主任技術者 	なし
ω 平成30年 4月11日	高須 洋司 大和田 智	発電用原子炉 主任技術者 	なし
平成30年 4月27日	岸 田 国 基 環境技官 河田 拓也	発電用原子炉 主任技術者 	なし

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成30年 6月11日	中田 聡 環境技官 須貝 実	発電用原子炉 主任技術者 	なし
平成30年 6月22日	村上 恒夫 環境技官 河田 拓也	発電用原子炉 主任技術者 	なし
令和元年 6月5日	中田 聡 高橋 和宏	発電用原子炉 主任技術者 	なし

+

検査結果一覧表

系統名：放射線管理施設 生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）

検査項目	材料検査	寸法検査	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	備考
検査日	平成30年 3月27日	平成30年 3月27日	年 月 日	年 月 日	
結果	良	良	/		
検査日	年 月 日	平成30年 4月11日	年 月 日	年 月 日	
結果	/		良	/	
検査日	平成30年 4月27日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果	良	/			

ウ

検査結果一覧表

系統名：放射線管理施設 生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）

検査項目	材料検査	寸法検査	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	備考
検査日	年 月 日	平成30年 6月11日	平成30年 6月11日	年 月 日	
結果	/	良	良	/	
検査日	平成30年 6月22日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果	良	/	/	/	
検査日	令和元年 6月5.6日	令和元年 6月5.6日	令和元年 6月5.6日	令和元年 6月5.6日	
結果	良	良	良	良	

9

高浜発電所第1号機 使用前検査記録 検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元年 6月5.6日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年		
		月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであることを確認する。	記録確認	令和元年 6月5.6日	良	
		年		
		月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元年 6月5.6日	良	
		年		
		月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 3月27日	良	
		平成30年 4月27日	良	
		平成30年 6月22日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 3月27日	良	
		平成30年 4月27日	良	
		平成30年 6月22日	良	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成30年 3月27日	良	
		平成30年 4月27日	良	
		平成30年 6月22日	良	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

寸法検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 3月27日	良	
		平成30年 4月11日	良	
		平成30年 6月11日	良	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 3月27日	良	
		平成30年 4月11日	良	
		平成30年 6月11日	良	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成30年 3月27日	良	
		平成30年 4月11日	良	
		平成30年 6月11日	良	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

寸法検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 6月5.6日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 6月5.6日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	令和元年 6月5.6日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成30年 6月11日	良	
		令和元年 6月5,6日	良	
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成30年 6月11日	良	
		令和元年 6月5,6日	良	
		年 月 日		

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用)	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	平成30年 3月27日	良 ^{*2}	目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (g/cm³)
- 鉄筋

機械式継手

- スリール 填ケ^ウ、 練混ぜ水量、 フロー値、
- 充填ケ^ウの充

※2：以下の箇所について確認

1階 西壁-2 (詳細は別紙参照)

・記録確認は、申請者の品質記録(※3)による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号：T1-1-1303(その2)

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用)	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	平成30年 4月27日	※2 良	目視 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (g/cm³)
- 鉄筋

機械式継手

- スリーブ、 充填グラフト材、 練混ぜ水量、 フロー値、 充填グラフト材の充填確認

※2：以下の箇所について確認

- ・1階西壁-2 (詳細は別紙参照)
- ・フレッシュコンクリートの性状の適合性確認検査全3回のうち、3回目について確認。

・記録確認は、申請者の品質記録(※3)による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号：

※3：申請者が適用した基準に対して満足していることを確認。

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：~~関西電力株式会社~~高浜発電所
一般財団法人日本建築総合試験所 試験研究センター

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用)	鉄筋コンクリート*1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	平成30年 6月22日	良*2	目視 記録確認

備考

*1：検査において確認した項目は以下のとおり*3

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (g/cm³)
- 鉄筋

機械式継手

- スリーブ、 充填グラウト材、 練混ぜ水量、 フロー値、 充填グラウト材の充填確認

*2：以下の箇所について確認

1階西壁-2 (詳細は、別紙参照)

*記録確認は、申請者の品質記録 (*3) による。

*3：適合性確認検査成績書の要領書番号：

*3：申請者が適用した基準に文にて満足していることを確認。

高浜発電所第1号機

材料検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

~~一般財団法人日本建築総合試験所 試験研究センター~~

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置

緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

対象機器	使用材料	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用)	鉄筋コンクリート※1 (密度 2.1g/cm ³ 以上)	令和元年 6月5,6日	良	目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり※4

- セメント
- 骨材
- 練混ぜ水
- 混和剤
- フレッシュコンクリートの性状
- 構造体コンクリートの圧縮強度
- アルカリシリカ反応性
- 遮蔽コンクリートの乾燥単位容積質量 確認した密度の最小値 (2.235 g/cm³)
- 鉄筋
- 機械式継手
 - スリーブ、 充填グラウト材、 練混ぜ水量、 フロー値、 充填グラウト材の充填確認

※2：以下の箇所について確認

・記録確認は、申請者の品質記録（※3）による。

※3：適合性確認検査成績書の要領書番号：T1-1-1303(その2)

※4：申請者が適用した基準に対して満足していることを確認。

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象		主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{*1} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査結果	検査方法		
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用) ^{*1}	北壁	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	年 日	[REDACTED]	目視/ 記録確認		
	東壁				月		年 日	目視/ 記録確認	
	南壁				月		年 日	目視/ 記録確認	
	西壁				—		平成30年 3月27日	良 ^{*2}	目視/ 記録確認
	天井				月		年 日	目視/ 記録確認	

備考

- ※1：検査において確認した項目は以下のとおり^{*5}
- 鉄筋の組立精度等
 - 型枠の組立精度等
 - 寸法

※2：以下の箇所について確認

1階 西壁-2 (詳細は別紙参照)

※3：公称値

※4：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録(※5)による。

※5：適合性確認検査成績書の要領書番号

※5：申請者が適用した基準に対して満足していること確認。
平成30年4月17日 追記

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象		主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{*4} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用) ^{*1}	北壁	[REDACTED]	[REDACTED]	-	年 日 月	良 ^{*2}	目視/ 記録確認
	東壁				年 日 月		目視/ 記録確認
	南壁				年 日 月		目視/ 記録確認
	西壁				平成30年 4月11日		目視 記録確認
	天井				年 日 月		目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり^{*5}
 鉄筋の組立精度等
 型枠の組立精度等
 寸法

※2：以下の箇所について確認

1階西壁-2 (詳細は別紙参照)

※3：公称値

※4：許容値は工事計画による。

~~記録確認は、申請者の品質記録（※5）による。~~

~~※5：適合性確認検査成績書の要領書番号~~

※5：申請者が適用した基準に対して満足していることを確認

平成30年4月17日 追記 [REDACTED]

高浜発電所第1号機						
寸法検査記録						
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所						
検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式						
判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。						
検査対象	主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{※4} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用) ^{※1}	北壁			年 月 日		目視/ 記録確認
	東壁			年 月 日		目視/ 記録確認
	南壁			年 月 日		目視/ 記録確認
	西壁			平成30年 6月11日	良 ^{※2}	(目視) 記録確認
	天井			年 月 日		目視/ 記録確認
備考						
<p>※1：検査において確認した項目は以下のとおり</p> <p><input type="checkbox"/> 鉄筋の組立精度等</p> <p><input type="checkbox"/> 型枠の組立精度等</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 寸法</p> <p>※2：以下の箇所について確認</p> <p style="text-align: center;">1階 西壁-2 (詳細は別紙参照)</p> <p>※3：公称値</p> <p>※4：許容値は工事計画による。</p> <p>記録確認は、申請者の品質記録(※5)による。</p> <p>※5：適合性確認検査成績書の要領書番号</p>						

高浜発電所第1号機

寸法検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：各部の主要寸法の測定値が許容寸法を満足すること。

検査対象		主要寸法 (最小厚さ) (m)	許容値 ^{※4} (m)	測定値 (m)	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 (1・2・3・4号機共用) ^{※1}	北壁	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	令和元年 6月5日	良	目視/ 記録確認
	東壁				令和元年 6月5日	良	目視/ 記録確認
	南壁				令和元年 6月5日	良	目視/ 記録確認
	西壁				令和元年 6月5日	良	目視/ 記録確認
	天井				令和元年 6月5日	良	目視/ 記録確認

備考

※1：検査において確認した項目は以下のとおり^{※6}

- 鉄筋の組立精度等
- 型枠の組立精度等
- 寸法

※2：以下の箇所について確認

※3：公称値

※4：許容値は工事計画による。

・記録確認は、申請者の品質記録（※5）による。

※5：適合性確認検査成績書の要領書番号：T1-1-1303(その2)

※6：申請者が適用した基準に対して満足していることを確認

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 （1・2・3・4号機共用）	平成30年 6月11日	良 ^{※1}	目視 記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

1階西壁-2（詳細は別紙参照）

~~記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。~~~~※2：適合性確認検査成績書の要領書番号。~~

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 （1・2・3・4号機共用）	令和元年 6月5日	良 ^{*1}	目視 記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

1階西壁-2（詳細は別紙参照）

~~記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。~~~~※2：適合性確認検査成績書の要領書番号。~~

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置
 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 （1・2・3・4号機共用）	令和元年 6月5日	良	目視/記録確認

備考

※1：以下の箇所について確認

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の要領書番号：TT-1-1303(その2)

高浜発電所第1号機			
組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 （1・2・3・4号機共用）	令和元年 6月5日	良 ^{※1}	目視 [○] 記録確認
備考 <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後の外観も含めて確認 ・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。 ※1：適合性確認検査成績書の要領書番号： ※1：以下の箇所について確認 1階西壁-2（詳細は別紙参照）			

高浜発電所第1号機 組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：放射線管理施設 生体遮蔽装置 緊急時対策所遮蔽（1・2・3・4号機共用）：一式			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
緊急時対策所遮蔽 （1・2・3・4号機共用）	令和元年 6月5日	良	目視/記録確認
備考 <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後の外観も含めて確認 ・記録確認は、申請者の品質記録（※1）による。 ※1：適合性確認検査成績書の要領書番号：T1-1-1303(その2)			

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日:平成30年3月27日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
寸法検査	ｺﾝﾊﾞｯｸｽ				2017.2.3 2019.2.2	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：平成30年 4月 //日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
寸法検査	コンベックス				2017.2.3 2019.2.2	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：平成30年4月27日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
材料検査	エアメータ				H29. 12. 14 H30. 6. 13	
材料検査	温度計				H29. 9. 28 H32. 9. 27	
材料検査	塩化物量測定器				— H31. 5. 31	カンタブ 低濃度品
材料検査	電磁式はかり				H30. 3. 8 H31. 3. 7	
材料検査	コンベックス				H29. 2. 3 H31. 2. 2	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日:平成30年6月11日

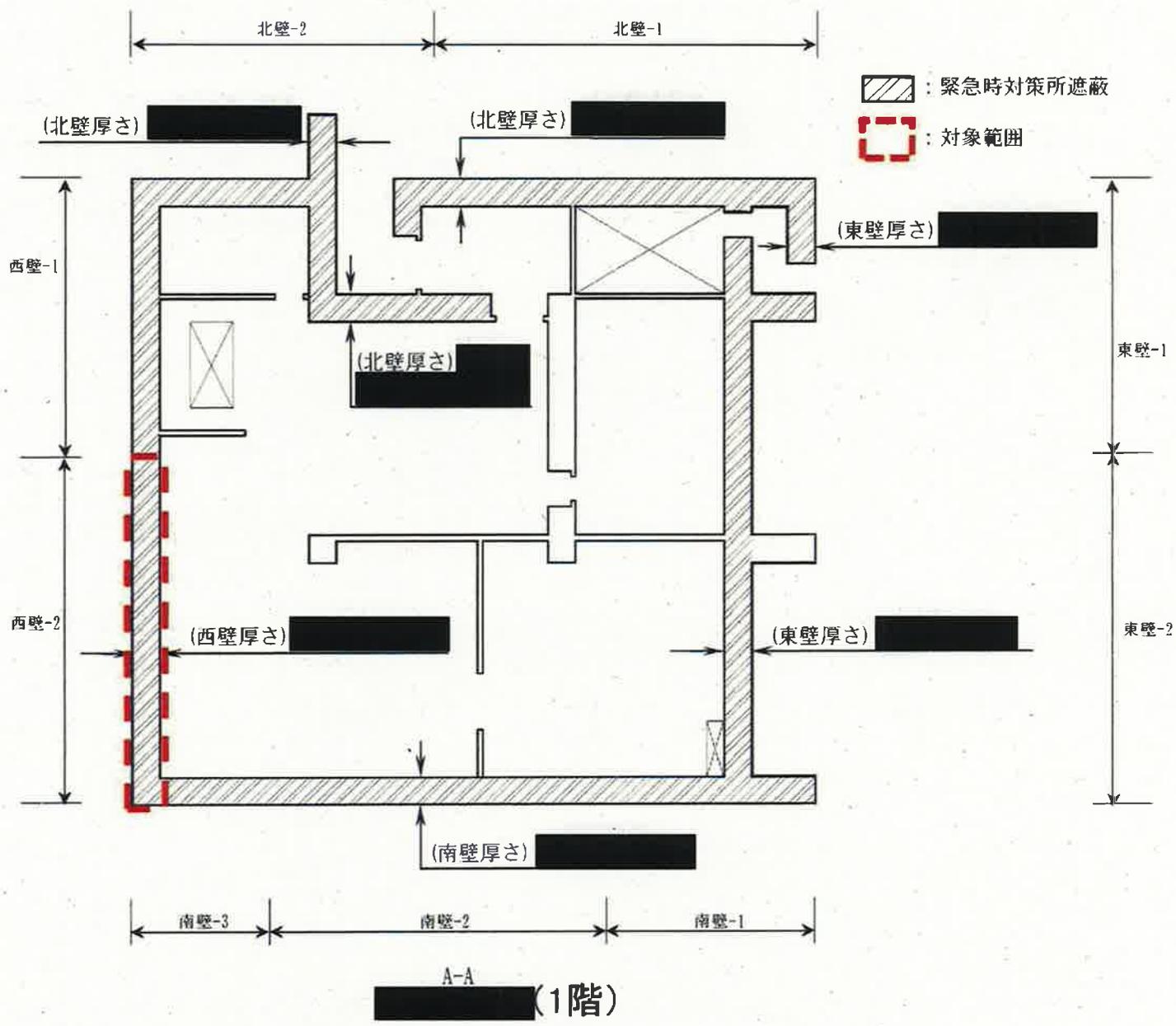
検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
寸法検査	コンベックス				2017.2.3 2019.2.2	

高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

検査年月日：平成30年6月22日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
材料検査	圧縮試験機	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	平成30年2月21日	
					平成31年2月28日	
材料検査	ノギス	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	平成30年2月9日	
		[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	平成31年2月28日	

30



別紙

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-08

令和2年9月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-08

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年6月25日
至 令和2年9月30日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第236号(2020年8月21日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月25日	良	増本 豊 	ボイラー - 7-7V 主任技術者 	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和 2 年 6 月 25 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 6月 25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・⊖	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 6月 25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 格納容器安全設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0204 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

原子炉格納施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものについては、次の事項

3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(1) 格納容器安全設備に係る次の事項

リ 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
									<small>(注3, 28)</small>	<small>(注3, 14, 28)</small>	<small>(注28)</small>
									88.9	5.5	SUS27TP
									<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>	
									88.9	5.5	SUS304TP
									<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>	
							<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>	89.1	5.5	SUS304TP
									<small>(注3)</small>	<small>(注3, 14)</small>	
									165.2	7.1	SUS304TP
									<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>	
									165.2	7.1	
									/	/	SUS304TP
									89.1	5.5	

格納容器安全設備

原子炉下部
キャビティ注水
ポンプ出口配管
分岐点
～
弁 (1MOV-5420)

7

8

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
						格納容器安全設備			(注3)	(注3)		
										88.9	5.5	
										/	/	
										-	-	SUS304TP
										/	/	
								(注3)	(注3)	89.1	5.5	
							2.7	95	(注3)	(注3)		
									165.2	7.1		
									/	/		
									-	-	SUS304TP	
									/	/		
									165.2	7.1		

6

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
					格納容器安全設備	弁(1MOV-5420) ~ 格納容器貫通部 PEN#301	(注9) 2.7	(注9) 138	(注9) 88.9	(注14) 5.5	SUS304TP
						格納容器貫通部 PEN#301 ~ 弁(1V-5421)	(注9) 2.7	(注9) 138	(注9) 88.9	(注14) 5.5	SUS304TP

変更前					変更後								
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
						格納容器安全設備 弁(IV-5421) ～ 下部キャビティ 取合点	2.7	138	(注3)	(注3)	SUS304TP		
											(注3)	(注3, 14, 28)	(注28)
											(注3)	(注3, 14)	SUS27TP
											(注3)	(注3, 14)	SUS304TP
											(注3)	(注3, 14)	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP		
									88.9	5.5	SUS304TP		
									114.3	6.0	SUS27TP		
									114.3	6.0	SUS304TP		
									165.2	7.1	SUS304TP		
									114.3	6.0	SUS304TP		
									88.9	5.5	SUS304TP		

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
						格納容器安全設備	2.7 ^(注)	138 ^(注)	165.2 ^(注)	7.1 ^(注)	SUS304TP
					114.3				6.0		
					114.3				6.0	SUS304TP	
					114.3				6.0		

//

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月18日	良	増本 豊 	ボイラー-タービン主任技術者 	なし

12

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和 2 年 8 月 18 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 8 月 18 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・一	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
(一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 8月 18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 格納容器安全設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	(目視) (記録確認)
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0204 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
 (一号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和 2 年 8 月 18 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
弁 (1MOV-5420) ～ 格納容器貫通部PEN#301 (別添1-3参照)	外観検査 組立て及び据付け 状態検査 耐圧検査 漏えい検査	別添 2 参照 (耐圧検査 漏えい検査)	良	目視
格納容器貫通部 PEN#301 ～ 弁 (1V-5421) (別添 1-3 参照)				
弁 (1V-5421) ～ 下部キャビティ取合点 (別添 1-4、1-5 参照)				
備考				

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年8月18日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏えい検査	圧力計				2020.5.26	F.S.:7kSPAN
					2020.8.31	(正)
耐圧検査 漏えい検査	圧力計				2020.5.26	F.S.:7kSPAN
					2020.8.31	(副)
-以下余白-						

61

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						格納容器安全設備	2.7 ^(注9)	95 ^(注9)	^(注3) 88.9	^(注3) 5.5	SUS304TP
					—				—		
					^(注3) 89.1				^(注3) 5.5	SUS304TP	
					^(注3) 165.2				^(注3) 7.1		
								^(注3) 165.2	^(注3) 7.1		

原子炉下部
キャピティ注水
ポンプ出口配管
分岐点
～
弁(1MOV-5420)

20

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
					格納容器安全設備	弁(1MOV-5420) ~ 格納容器貫通部 PEN#301	(注9) 2.7	(注9) 138	(注3) 88.9	(注3, 14) 5.5	SUS304TP
						格納容器貫通部 PEN#301 ~ 弁(1V-5421)	(注9) 2.7	(注9) 138	(注3) 88.9	(注3, 14) 5.5	

21

変更前					変更後								
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
						格納容器安全設備	弁 (IV-5421) ~ 下部キャビティ 取合点	(注9) 2.7	(注9) 138	(注3)	(注3)	SUS304TP	
										88.9	5.5		
										(注3, 28)	(注3, 14, 28)		(注28)
										114.3	6.0		SUS27TP
										(注3)	(注3, 14)		SUS304TP
114.3	6.0												
(注3)	(注3, 14)	SUS304TP											
165.2	7.1												
(注3)	(注3)		SUS304TP										
114.3	6.0												
/	/												
88.9	5.5												

22

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						格納容器安全設備 弁 (1V-5421) ~ 下部キャビティ 取合点	2.7	138	(注3)	(注3)	SUS304TP
					165.2				7.1		
					/				/		
					114.3				6.0		
					(注3)				(注3)		
					114.3	6.0	SUS304TP				
					/	/					
					-	-					
					/	/	SUS304TP				
					114.3	6.0					

検査対象	最高使用圧力 (MPa)※1	耐圧検査 規定圧力 (MPa)	耐圧検査時 圧力 (MPa)	保持時間 (分)	漏えい検査時圧力 (MPa)	水圧、気圧 区分
弁(1MOV-5420) ～ 格納容器貫通部 PEN#301	2.7	2.7以上	2.80	11	2.80	水圧
格納容器貫通部 PEN#301 ～ 弁(1V-5421)						
弁(1V-5421) ～ 下部キャビティ取 合点						
備考 ※1：重大事故等時における使用時の値 ※2：使用圧力※1×1.0 (2.7MPa×1.0=2.7MPa) 以上						

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月25日	良	渋谷 徹 	ボイラー-7-セン 主任技術者 	なし

24

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年9月25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 9月 25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年9月25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 格納容器安全設備 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0217 一 目視で確認した範囲：			

設 備 概 要

原子炉格納施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項

3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(1) 格納容器安全設備に係る次の事項

リ 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(次ページに続く)

28

29

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						格納容器安全設備 原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ出口配管 分岐点 ～ 弁(1MOV-5420)	2.7	95	(注3, 28)	(注3, 14, 28)	(注28)
					88.9				5.5	SUS27TP	
					(注3)				(注3)		
					88.9				5.5	SUS304TP	
					(注3)				(注3)		
					89.1				5.5	SUS304TP	
					(注3)	(注3, 14)					
					165.2	7.1	SUS304TP				
					(注3)	(注3)					
					165.2	7.1					
					／	／	SUS304TP				
					89.1	5.5					

(次ページに続く)

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
						格納容器安全設備 原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ出口配管 分岐点 ～ 弁(1MOV-5420)	(注9) 2.7	(注9) 95	(注3)	(注3)	SUS304TP		
												88.9	5.5
												/	/
												-	-
												/	/
												89.1	5.5
								(注3)	(注3)	SUS304TP			
								165.2	7.1				
								/	/				
								-	-				
								/	/				
								165.2	7.1				

31

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						格納容器安全設備 弁(1V-5421) ~ 下部キャビティ 取合点			(注3)	(注3)	SUS304TP
									88.9	5.5	
									(注3, 28)	(注3, 14, 28)	(注28)
									114.3	6.0	SUS27TP
									(注9)	(注9)	SUS304TP
								2.7	138		
								(注3)	(注3, 14)		
								(注3)	(注3, 14)	SUS304TP	
								165.2	7.1		
								(注3)	(注3)	SUS304TP	
								114.3	6.0		
								88.9	5.5		

(次ページに続く)

別添1 (4/6)
 (令和2年9月25日)

変更前					変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
						格納容器安全設備 弁(1V-5421) ～ 下部キャビティ 取合点	(注9) 2.7	(注9) 138	(注3)	(注3)	SUS304TP		
												165.2	7.1
											114.3	6.0	
											(注3)	(注3)	SUS304TP
								114.3	6.0				
								—	—				
									114.3	6.0			

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(1-6400A、B)～内部スプレポンプ(SP-1、A、B、C、D)への分岐点まで」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備及びその他発電用原子炉の附属施設(火災防護設備)のうち消火設備と兼用

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプルB～弁(1-6408A、B)」と記載

(注7) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」の記載による。

(注8) 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用

(注9) 重大事故等時における使用時の値

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-6408A、B) ～内部スプレポンプへの合流点」と記載

(注11) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプへの分岐点～内部スプレポンプ入口レジューサ (10×8) 」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口レジューサ (8×6) ～内部スプレクーラへの合流点」と記載

(注14) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ入口合流点～内部スプレクーラ出口分岐点」と記載

(注16) 重大事故等時に使用

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ出口分岐点～外部しゃへい壁貫通部」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (1-6417A、B) ～エダクタ」と記載

(注19) エルボを示す。

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口分岐点～エダクタ～内部スプレポンプ入口管」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「よう素除去薬品タンク～弁 (1-6417A、B) 」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ出口分岐点～弁 (1-6411A、B) 」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「外部しゃへい壁～レジューサ (8×6) 」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (8×6) および分岐点～オリフィス」と記載

(注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「オリフィス～内部スプレリングヘッド (1A、2A、4A、1B、2B、4B) 」と記載

(注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「オリフィス～内部スプレリングヘッド (3A、3B) 」と記載

(注27) SUS27TP同等材 (SUS304TP) への取替えを行う。

(注28) 本設備は既存の設備である。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
<p>令和2年 9月30日</p>	<p>良</p>	<p>渋谷 徹 </p>	<p>ボイラー-タービン 主任技術者 </p>	<p>なし</p>

34

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和 2 年 9 月 30 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 9月 30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会 記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年 9月 30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 熱交換器 別添1参照 主配管 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・材料検査 ・寸法検査 ・外観検査 ・組立て及び据付け状態を確認する検査 ・耐圧検査 ・漏えい検査 	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 記録確認
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0120 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (一号検査) (立会検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年9月30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
熱交換器 (A格納 容器循環冷暖房 ユニット)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組立て及び据付け状態を確認する検査 ・ 耐圧検査 ・ 漏えい検査 	別添2参照	良	目視
備考				

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
検査用計器一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和2年9月30日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏えい検査	圧力計				2019.12.9 2022.12.8	
耐圧検査 漏えい検査	圧力計				2019.12.9 2022.12.8	
以下余白						

設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606104号（平成28年6月10日認可））

原子炉格納施設

- 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項
(次ページより記載)

40

(4) 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備に係る次の事項

□ 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所

・常設

(1/2)

			変更前	変更後
名称				A格納容器循環冷暖房ユニット (注1)
種類	—			冷却コイル
容量	量 (注2) MW/個			
管側	最高使用圧力 (注2) MPa			1.2
	最高使用温度 (注2) °C			161
胴側	最高使用圧力 (注2) MPa			—
	最高使用温度 (注2) °C			155
伝熱面積 (注2)	m ² /個		—	
主要寸法	吸込口径 mm			
	吐出口径 mm			
	たて mm			
	横 mm			
	高さ mm			
材料	—			
個数	—			1

17

		変更前	変更後
取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	-	A格納容器再循環ライン
	設 置 床	-	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	-	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	-	

42

又 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料
・常設

43

カ
カ

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注5) 可燃性ガス 放射性物質濃度制御設備及び A格納容器 循環冷暖房 ユニット ~ ダクト開放機構	0	155	(注2) 2,300 × 2,300	(注2) 1.6	SPG
							(注4)	(注4)	(注2) 2,300 × 2,300	(注2) 3.2	SPG

- (注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注2) 公称値
- (注3) 入口と出口の口径が異なる管である。
- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。

45

検査対象	最高使用圧力 (MPa) ^{※1}	耐圧検査圧力 (MPa) ^{※2}	保持時間 (分)	漏えい検査圧力 (MPa)	水圧、気圧 (区分)
A格納容器循環冷暖房ユニット	1.2	1.22	//	1.21	水圧
備考 ※1：重大事故等時における使用時の値 ※2：最高使用圧力×1.0 (1.2 MPa×1.0=1.2 MPa) 以上					

46/E

別添2 (令和 2年 9月 30日)

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機

構造、強度又は漏えいに係る
使用前検査成績書

施設名 : 原子炉格納施設

系統名 : 圧力低減設備その他の安全設備

放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備

並びに格納容器再循環設備

再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置

要領書番号 : 原規規収第 1610071 号 1-09-1

令和 4 3
平成 27 年 3 月
~~令和 2 7~~
原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請※1 使用前検査申請番号
関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第582号(平成31年3月18日)
関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第3号(平成31年4月4日)
関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第68号(2019年5月16日)
関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第115号(2019年6月24日)
関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第204号(2019年8月23日)
関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第478号(2020年1月23日)
関原発第304号(平成31年2月1日) 関原発第510号(2020年1月31日)
関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第542号(2020年2月26日)
関原発第20号(2020年4月7日) 関原発第609号(2020年3月24日)
関原発第236号(2020年8月21日)
- 4 検査期日※1 自 ~~平成31~~年~~2~~月~~27~~日
至 ~~平~~年月日 事業者が適合性確認検査に改めて実施した
令和2 9 17 ところ検査を並加で実施したところを並記
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
- 6 検査範囲 高浜発電所第1号機
発電用原子炉施設
原子炉格納施設
圧力低減設備その他の安全設備
放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに
格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器
原子炉格納容器水素燃焼装置 12個(予備1個(ドーム部頂部
付近用))
- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり

※1: 別紙参照

3 検査申請

使用前検査申請番号

関原発第603号(2021年2月25日)

関原発第290号(2021年8月2日)

関原発第561号(2022年2月28日)

4 検査期日

自 平成31年2月21日

至 令和4年3月11日

事業者が適合性確認検査を改めて実施したことから

検査を追加で実施したことによる追記

9 添付資料

使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 外観検査記録
- 3 組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
平成31年 2月21日	鈴木 泰浩  水戸 侑哉 	電気 主任技術者 	なし
年 日 月		主任技術者	
年 日 月		主任技術者	

u

検査結果一覧表

系統名：圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器
原子炉格納容器水素燃焼装置

検査項目	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	備 考
検査日	平成31年 2月2日	平成31年 2月2日	
結果	良	良	
検査日	年 月 日	年 月 日	/
結果			
検査日	年 月 日	年 月 日	/
結果			

+

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成31年 2月2日	良	使用前検査成績書の「3検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成31年 2月2日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 2月2日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 2月2日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成3/年 2月2/日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成3/年 2月2/日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備

放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	平成31年 2月2日	良	目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0902

高浜発電所第1号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備
 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
 再結合装置及び電熱器
 原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	平成31年 2月21日	良	目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号： T1-1-0902

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月17日	増本 豊 	電気 主任技術者 	TSL
月 年 日		主任技術者	
月 年 日		主任技術者	

検査結果一覧表

系統名：圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器
原子炉格納容器水素燃焼装置

検査項目	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	備考
検査日	令和 2 年 9 月 17 日	令和 2 年 9 月 17 日	事業者が適合性確認検査を改めて 実施したことから検査を追加で実施
結果	良	良	
検査日	年 日 月	年 日 月	
結果			
検査日	年 日 月	年 日 月	
結果			

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和2年 9月17日	良	使用前検査成績書の「3検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和2年 9月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和2年 9月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和2年 9月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和2年 9月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和2年 9月17日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備

放射線物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	令和2年 9月17日	良	*1 目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	年 月 日		目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号；

※1：事業者が適合性確認検査を改めて実施したことから検査を追加で実施

高浜発電所第1号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備
 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
 再結合装置及び電熱器
 原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	令和2年 9月17日	良	*1(目視) 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13 (予備)	年 月 日		目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号

※1：事業者が適合性確認検査を改めて実施したことから検査を追加で実施

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和4年 3月11日	種市 隆人 北村 博史	電気 主任技術者 <div style="background-color: black; width: 100px; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>	なし
月 年 日		主任技術者	/
月 年 日		主任技術者	

17

検査結果一覧表

系統名：圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器
原子炉格納容器水素燃焼装置

検査項目	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	備 考
検査日	令和 4 年 3 月 11 日	令和 4 年 3 月 11 日	事業者が適合性確認検査を改めて 実施したことから検査を追加で実施
結果	良	良	
検査日	年 日 月	年 日 月	/
結果			
検査日	年 日 月	年 日 月	/
結果			

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

共通事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書(変更申請を含む。)が準備されていること。	記録確認	令和4年 3月11日	良	使用前検査成績書の「3検査申請」に申請番号(変更申請番号を含む。)を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和4年 3月11日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和4年 3月11日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和4年 3月11日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機 使用前検査記録

検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和4年 3月11日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和4年 3月11日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第1号機

外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備

放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	令和4年 3月11日	良	*1(目視) 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	年 月 日		目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号

*1：事業者が適合性確認検査を改めて実施したことから検査を追加で実施

高浜発電所第1号機

組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備
 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備
 再結合装置及び電熱器
 原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	令和4年 3月11日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	年 月 日		目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	年 月 日		目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号

※1：事業者が適合性確認検査を改めて実施したことから検査を追加で実施

関西電力株式会社
高浜発電所第1号機
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610071号99

成績書管理番号：1-09-2

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-09-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第1号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年8月5日
至 令和2年8月5日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第299号(平成28年10月7日) 関原発第434号(平成30年3月20日) 関原発第46号(平成30年4月20日) 関原発第202号(平成30年7月4日) 関原発第259号(平成30年8月20日) 関原発第415号(平成30年12月5日) 関原発第504号(平成31年2月1日) 関原発第512号(平成31年2月6日) 関原発第582号(平成31年3月18日) 関原発第3号(平成31年4月4日) 関原発第68号(2019年5月16日) 関原発第115号(2019年6月24日) 関原発第204号(2019年8月23日) 関原発第478号(2020年1月23日) 関原発第510号(2020年1月31日) 関原発第542号(2020年2月26日) 関原発第609号(2020年3月24日) 関原発第20号(2020年4月7日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月5日	良	平沢 淳 	ボイラー-タービン主任技術者 	なし

3

関西電力株式会社高浜発電所第 1 号機 使用前検査記録
共通事項

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和 2 年 8 月 5 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和2年 8月 5日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・ <u>—</u>	

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和2年 8月 5日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備 可燃性ガス濃度制御設備 格納容器再循環設備 再結合装置（常設） 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	(目視) (記録確認)
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T1-1-0121 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第1号機 使用前検査記録
 (一号検査)
 (立会検査)

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和2年 8月 5日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備 可燃性ガス濃度制御設備 格納容器再循環設備 再結合装置(常設)	外観検査		良	目視※
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備 可燃性ガス濃度制御設備 格納容器再循環設備 再結合装置(常設)	組立て及び据付け 状態を確認する検査		良	
備考 ※：目視にて確認した範囲は、別添2を参照				

設 備 概 要

原子炉格納施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項

3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(4) 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備に係る次の事項

ル 再結合装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、再結合効率、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに電熱器の名称、種類、容量、個数及び取付箇所

・常設

			変 更 前	変 更 後
名 称				静的触媒式水素再結合装置
種	類	—		静的触媒式
容 量			—	—
最 高 使 用 圧 力			—	—
最 高 使 用 温 度 ^(注1)			℃	500
再 結 合 効 率 ^(注2)			kg/h/個	1.2 (水素濃度 4vol%、圧力 0.15MPa[abs])
再結合装置	主要寸法	横	mm	
		奥 行 き	mm	
		高 さ	mm	
材料	本 体		—	
	個 数		—	
取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)		—	静的触媒式水素再結合装置
	設 置 床		—	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—	
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—		

(注1) 重大事故等時における使用時の値

(注2) 再結合効率は、メーカー型式FR1-380Tの性能評価式の代表点での値

(注3) 公称値

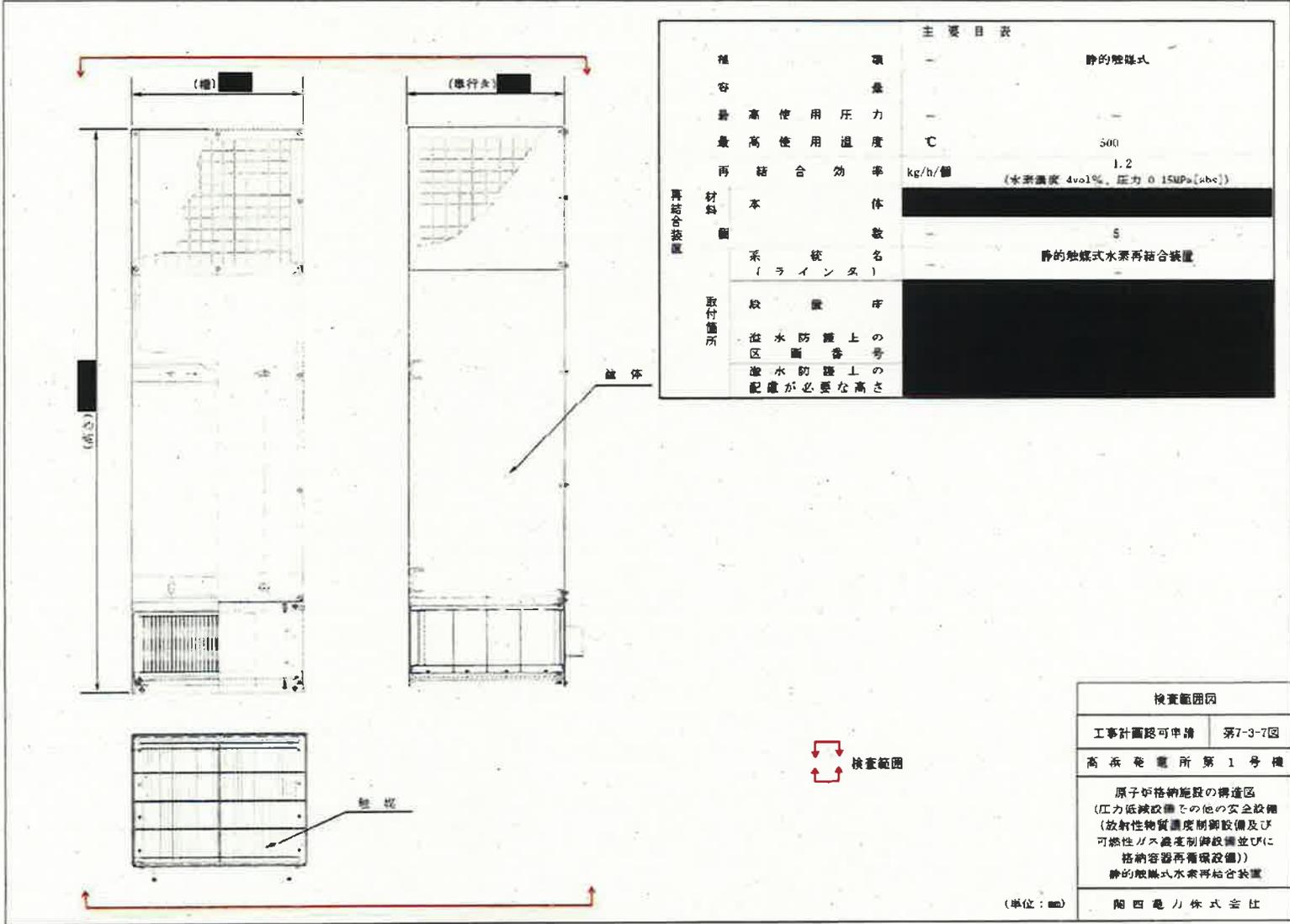


工事計画認可申請	第7-1-39回
発注先	電力株式会社
品名	電力株式会社
仕様	電力株式会社
数量	電力株式会社
単位	電力株式会社
備考	電力株式会社



工事計画書(申請書)	第1-1-40区
高圧発電所 高圧発電機	第1-1-40区
第1-1-40区に於ける機器の 配置を明示した図面 (圧力伝達設備との出のたふし設備 (放射能物質を貯蔵する設備及び 可燃性ガス貯蔵設備並びに 格納容器貯蔵設備) 等との位置関係は、別添2-1参照)	
三菱電機株式会社	

11/E



再結合装置		主要目表	
種	項	静的触媒式	
容	量		
最	高	使用圧力	—
高	最	使用温度	℃ 500
再	再	結合効率	kg/h/個 1.2 (水素濃度 4vol%, 圧力 0.15MPa[abs])
材	本	体	
料	個	数	5
取	系	統	名
付	(ライン	名
所)		静的触媒式水素再結合装置
	廠	序	
	溢	水	
	区	防	
	水	護	
	防	上	
	護	の	
	上	号	
	の		
	配		
	置		
	が		
	必		
	要		
	な		
	高		
	さ		

検査範囲

検査範囲図	
工事計画認可申請	第7-3-7図
高浜発電所第1号機	
原子炉格納施設の構造区 (圧力低減設備その他の安全設備 (放射性物質濃度制御設備及び 可燃性ガス濃度制御設備並びに 格納容器再循環設備)) 静的触媒式水素再結合装置	
(単位: mm)	関西電力株式会社